

阪大 —地域に生き世界に伸びる— NOW

80th 原点へ
ANNIVERSARY
未来へ
2011
OSAKA UNIVERSITY



OSAKA UNIVERSITY

12

2011/No.128

トピックス

大阪大学フォーラム 2011 開催

クローズアップ

大阪大学発!もったいないプロジェクト

—科学教育機器リノベーションセンターの取り組み—



2011 12月号 No. 128

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
80周年	16
ナウススペシャル	18
キャンパスニュース	20
表彰等	32
人事	37
訃報	39
インフォメーション	40
記念講義	40
職員インタビュー	43
海外拠点だより	44
交流協定大学・編集後記	46
クラブ&サークル	47
トピックス	48



お歯黒道具（江戸後期）

表紙写真：お歯黒道具（江戸後期）

漆塗りに金蒔絵の施された耳盤、その右に歯黒壺。また耳盤の手前、渡し金の上に左から五倍子箱、鉄漿杯、かね沸し。（歯学研究科所蔵）

「お歯黒の慣習とその意味」

平安時代には「はぐろめ」と言って、高貴な位の女子の間で8～9歳で「お歯黒」が行われておりました。室町時代になると、武士の間で「元服の儀式」として広がり、12～13歳の男子に施されていました。しかし、江戸時代に入ると、「お歯黒」は女子だけに限られるようになり、さらにこの風習が庶民の間にまで広がりました。この「お歯黒」は娘には「成人」を意味し、既婚女性には「黒い色は他の色に染まらない」つまり「二夫に見えず」貞節の意味をもっていました。

この「お歯黒」の風習も、明治時代になって欧米の文化が取り入れられるようになると、次第に衰退していきました。

表紙デザイン：株式会社ココティエ



「大阪大学フォーラム 2011」は、10月27日（木）と28日（金）の2日間にわたり、中国・上海市内のホテル日航上海を会場として開催されました。今回のメインテーマは、史上まれにみる大災害となった東日本大震災からの復興を願って、「防災・減災・災害復興と国際協力—日中の経験に学ぶ」（Disaster Prevention, Post-Disaster Reconstruction and International Cooperation: Learning from both Japanese and Chinese Experiences）とし、今後起こりうる地球規模の大災害に備えた国際協力の可能性を探り、大学、政府、企業、市民に課された役割について考えることを目的として掲げました。

2日間にわたるフォーラムでは、在上海日本国総領事館及び日本学術振興会北京研究連絡センターの後援を得て、中国の大学関係者、政府関係者、企業関係者、本学の上海同窓会関係者など、平野俊夫総長、高橋明理事・副学長、本学教職員及び大学院生を始め、120名あまりの参加者が集いました。

5つの分科会においては、災害復興と市民社会、耐震建築、土木構造物の地震対策、原発の安全性、国際災害支援など最新の研究成果が紹介され、熱心な質疑と討論が行われました。しめくくりの基調講演とパネル討論におい

2011」開催



では、大災害に対する国際協力のあり方をめぐって活発な議論と総括が行われました。どのセッションにも中国の研究者に積極的に参加していただき、災害に関する日中研究交流の貴重な機会を提供することができました。

「大阪大学フォーラム」は、本学の国際広報の重要な機会です。今回は、これまでの実績を踏まえつつ、いくつかの新しい方式を試行しました。まず、既存の研究グループを超えて、国際公共政策研究科、人間科学研究科、工学研究科、グローバルコラボレーションセンターなど文系・理系にまたがる防災・災害復興の専門家により実行委員会を組織しました。さらに国際交流オフィス国際交流課や上海教育研究センターなど全学的な協力を得てフォーラムを実施することにより、フォーラムの新しい実施方式の可能性を示すことができました。

また、本学の研究者だけでなく、防災・災害復興に取り組む日中の研究者や実務家が一堂に会し、東日本大震災からの

復興や災害分野の国際協力について議論した初の国際会議として大きな意義があったと考えます。実際、参加者からは今後も何らかの形で研究交流の継続を望む声が聞かれました。

もう一つの新しい試みとして、フォーラムの最後に「大阪大学カフェ」という留学説明会を開催し、フォーラムに参加した本学教員有志と日本への留学に関心を持つ中国の学生との交流の機会を設けました。ここでも日本への留学を希望する中国の大学生、高校生が多数参加してくれ、フォーラムを優秀な留学生の獲得につなげるという目的にそった成果を挙げることができたと思います。

大阪大学フォーラム 2011 実行委員長
国際公共政策研究科教授 山内直人

大阪大学発！もったいないプロジェクト ー科学教育機器リノベーションセンターの取り組みー

「もったいないプロジェクト」は、当センターが窓口になって行っている事業で、古くなった高額の研究教育装置を学内経費でリノベート（修理またはグレードアップ）して、もう一度活躍してもらおうという“実験装置再生復活”プロジェクトです。もったいない実験装置が復活することに加えて、装置管理者にとっては厳しい財政状況の中で修理費やグレードアップ費用が工面でき、さらに本学の学生・教職員にとっては他部局の高額の機器が利用できるという大きなメリットがあります。大阪大学が全国に先駆けて実施しており、研究機器整備と共同利用の「モデル」として全国の大学に普及してほしいと願っています。

はじめに

数年前、研究推進室が学内の機器の状況を調査したところ、「最近の装置には維持費がつかないので、プロジェクト終了後、装置が故障して使えない状態に陥っている」、「プロジェクト終了後、用済みの装置が休眠している」、「用をなさない装置が貴重なスペースを占有して困っている」などの苦情が寄せられました。完全な老朽化に至っていない装置でも放置されたまま利用されていないものが多数あることも判明しました。当時、大阪大学としても何とかしなければいけないという危機感から学内にあるリユース（再生）可能な研究教育機器を修理・復活させ、それらを汎用性基盤機器として広く学内の教員や学生への共同利用に供することを目的として、平成19年、全国に先駆けて科学教育機器リノベーションセンターを発足させました。また、大阪大学には研究機器開発の長い伝統と多くの成果があり機器開発の研究者層の厚さも大きな特徴ですので、それを生かして阪大オリジナルの機器開発力を結集して手作りの、カスタマイズされたオンリーワンの汎用性先端基盤機器の開発にも当センターで取り組むことになりました。前者は学内の総長裁量経費等で、後者は文科省の特別教育研究経費の支援を受け、センター設立時から順調にスタートして今日に至っております。幸いにも学内の皆様のご協力とご支援の下で機器整備とその機器利用が進んでおります。今回は本センターの活動内容をご紹介します学内外の研究者や学生が有効にこれらの機器を活用なされ教育や研究の発展に大いに役立てていただきたいと願っております。

“実験装置再生復活”プロジェクト (リユース研究教育基盤機器整備事業)

科学教育機器リノベーションセンターでは、「大阪大学における設備整備に関するマスタープラン」に基づき、もったいない精神でリユース可能な研究教育機器を活用する「リユース研究教育基盤機器整備事業」を推進しています。本事業で対象としているのは各部局に所属する研究教育機器・設備です。事業のしくみは右図に示しますように、リユース可能な機器・設備に関する全学的な調査を行い、リユース選考のガイドラインに合う機器を選定し修理・復活再生に必要な経費を配分します。リユース機器の要件としては、汎用性および有用性があり、全学共同利用設備・機器としての利用が見込めること。購入金額がおおよそ500万円以上の設備・機器で、購入価格の20%程度以下の修理費に収まることなどがが必要です。

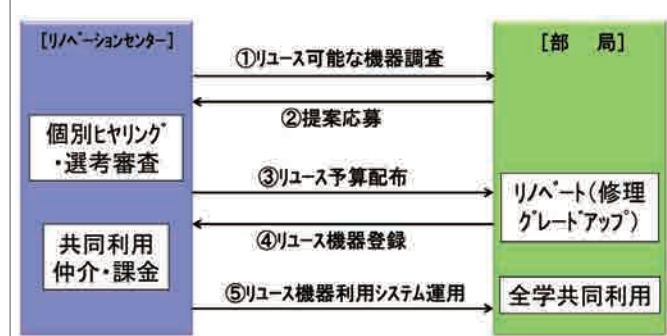
リユース後はリユース機器として登録し、全学共同利用に供する運転時間を確保して頂き共同利用の推進を図ります。

部局間の共同利用に関しては、当センターで「リユース設備・機器利用システム」を運用し、センターのホームページより利用の申し込みを受け付けています。また、課金制度を適用し、使用料の半額を管理部局の収入とし、残り半額はリノベーションセンターの事業運営費としています。

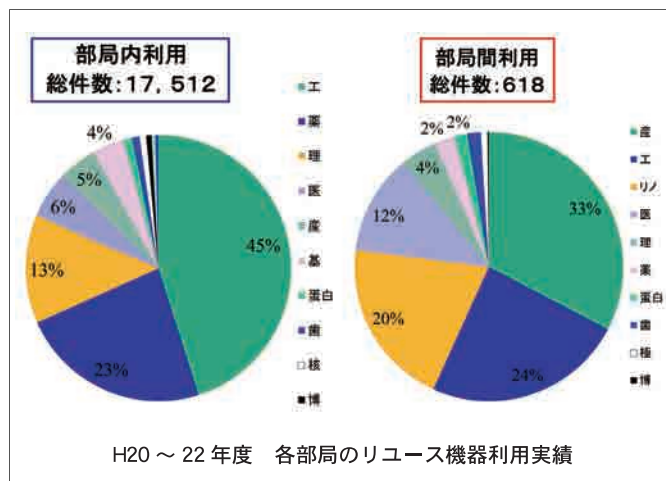
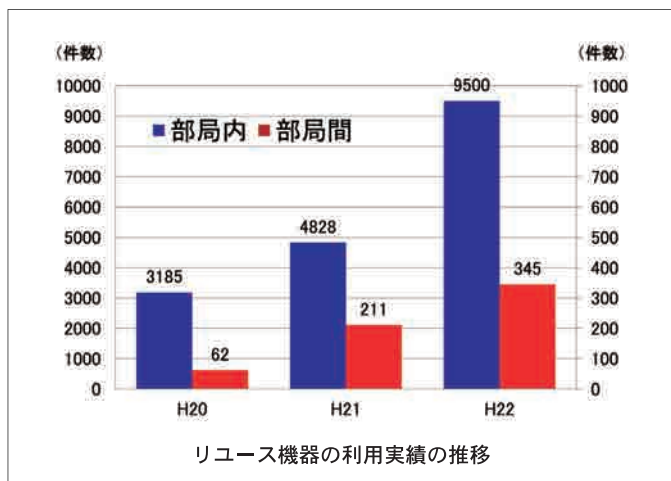
これまでリユース機器として登録されているのは、核磁気共鳴装置、質量分析装置、X線回折装置、走査電子顕微鏡、ICP、EPMA等の元素分析装置、DNA解析装置等、現時点で70機種になっています。リユースの投資効果としては、老朽化が激しい購入価格5000万円のEPMA装置に約1000万円のリユース費を支援して、分光結晶を新しくしコンピュータをバージョンアップただけで、初期の性能を発揮するようになり利用者が激増しました。また、核磁気共鳴装置に液体窒素自動供給装置を付設することにより、毎週50Lの窒素を補給する手間が無くなり搬入・補給にかかる人件費を大幅に削減できました。その他、DNA解析装置の制御システムとソフトウェアの更新によるデータ解析時間の大幅な短縮等、多くの成果をあげています。

リユース機器の共同利用は平成20年度に開始してから4年目に入り、利用件数も着実に増加しています。平成22年度の部局内の利用実績は9,500件、部局間利用は345件に及んでいます（グラフ1,2（次頁））。平成22年度からは、核磁気共鳴装置、質量分析装置、元素分析装置等の一部の装置について（現在5機種）学外からの依頼も受け付けており、今後は学外共同利用に供する機種を順次増やしたいと考えています。

リユース研究教育基盤機器 整備事業のしくみ



ジェクト



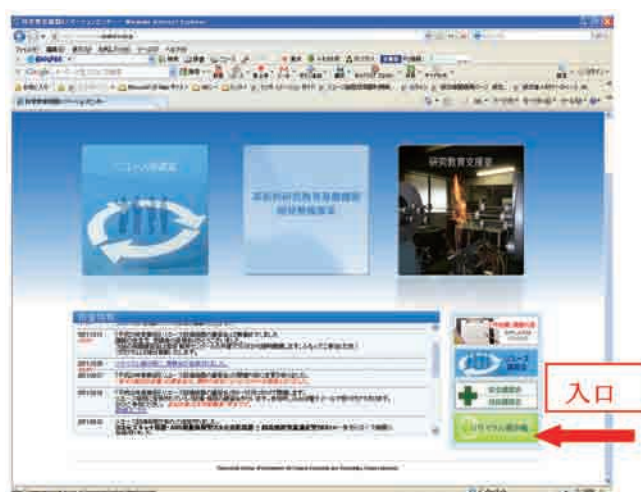
リサイクル掲示板

平成21年11月から、講座または部局で不要になった研究用機器を有効活用するための『リサイクル掲示板 GARAGE SALE』を、科学教育機器リノベーションセンター内のホームページに設けています。(下図)平成23年12月現在まで、11台の登録申請があり、核磁気共鳴装置や中央実験台のリサイクル取引が成立した実績があります。

今後とも、リサイクル掲示板を全学的に周知徹底することで登録申請の増加を図り、資源の有効活用並びに経費節約に向け貢献していく所存ですので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

なお、リサイクル掲示板は、阪大ホームページのTOP画面にある「阪大スタイル」からでも、「もったいないプロジェクト」の一環として、科学教育機器リノベーションセンター内に設けてあるリサイクル掲示板にアクセスできますので(学内閲覧限定です)、奮ってご利用ください。

【リノベーションセンターHP】



阪大オンリーワン先端機器開発 (革新的研究教育基盤機器開発整備事業)

科学教育機器リノベーションセンターの主たる任務の一つは阪大オンリーワンの先端機器開発とその共同利用化です。この任務を実現するために、平成20年度に概算要求しました「革新的研究教育基盤機器開発整備事業」提案が文部科学省から認められ、平成20年度から5カ年計画で、7件の装置開発がスタートしております。本事業では、従来の既存設備の更新に頼らず、大学の研究・開発力を生かし、従来の汎用機器よりも際立った性能を有し、より汎用性のある設備を自力で開発することにより、ユーザーの研究環境のニーズにマッチした設備を整備します。

大阪大学において、世界最先端を目指した研究教育を遂行するため、研究者の視点で開発された設備を整備することは効率的で高度な研究を遂行するために必須の事業であり、研究開発の面においても新たな研究領域の創出・開発など今後の異分野融合研究の創出となります。

また、本事業を通して大学院生及び機器開発従事者の研究装置開発教育を充実させることができます。これは、大阪大学が全国に先駆けて行っている非常にユニークな事業で、当センター先端機器開発室の岡田美智雄教授、橋之口道宏助教を中心に推進しています。

次頁で、開発装置の一覧をご紹介します。



開発装置の一覧

1. 高性能小型マルチターン飛行時間型質量分析計
2. 全固体真空紫外レーザーによる超微細加工装置
3. 単一分子化学反応時間空間分解測定装置
4. STM-SQUID磁気顕微鏡
5. 超精密THz赤外分光用の標準周波数スケールコム
6. 走査型電子線誘起超音波顕微システム
7. 精密弾性定数測定システム

これらのうち1（高性能小型マルチターン飛行時間型質量分析計）と2（全固体真空紫外レーザーによる超微細加工装置）の装置については既に完成し、本センター吹田プラント（産業科学研究所インキュベーション棟4階）と豊中センターに設置され運用を開始しました。この他、先端機器開発室では、共同利用に供する「超低速イオンビームによる二次イオン質量分析計」の開発を大学院生とともに進めております。



高性能小型マルチターン飛行時間型質量分析計



全固体真空紫外レーザーによる超微細加工装置



超低速イオンによる二次イオン質量分析計

研究教育支援業務について

改組後は所属が変わりましたが、旧工作センターが行っていた研究教育支援業務をすべて引き継ぎ、豊中センターで活動しています。表1に担当グループと業務内容を示します。安価だけでなく、民間では難しいきめ細やかな対応が出来るのが特徴です。実験装置の製作・改造・修理や分析に関わる様々な相談を常時受け付け、製作途中での仕様変更や緊急作業、そして持ち込み材料や廃部品の利用など、可能な限り依頼者の要望に合わせたフレキシブルな現場対応を行っています。依頼に際しては依頼伝票を依頼先のグループ責任者

まで提出してください。設備上の制約などで対応できない作業もありますので、不明な点があれば相談窓口まで遠慮なくお申し出ください。また、ストックルームには実験に必要な金属材料、ガラス材料、エレクトロニクス部品、真空部品などを揃えていますので、ご利用ください。

真空・低温関係の基本的な技術を身近に体感できることを念頭に置いて教育教材を製作し、学部基礎セミナーや学生実験などに活用して頂いております。これらの教材の利用を希望される方は以下の相談窓口までご連絡下さい。

依頼伝票はこちらからダウンロードできます。 <http://www.reno.osaka-u.ac.jp/shien/irai.html>

相談窓口 不明な点があればこちらまで（担当：石塚 E-mail: ishizuka@cw.osaka-u.ac.jp）

表1 研究教育支援に関わる担当グループと業務内容

室名	グループ名		業務内容
研究教育支援室	機械工作グループ		金属製品の製作、部品加工、溶接、軽微な修理など
	ガラス工作グループ		ガラス製品の製作、ガラス・セラミックスの機械加工、軽微な修理など
	化学分析グループ		定性・定量化学分析（ICP、原子吸光）
	グループ連携（真空・低温技術担当）		真空低温関連の器具や装置の製作・改良・修理、真空漏れ試験や残留ガス分析、薄膜の作製や組成分析、真空低温関係の学生実習への協力や技術講習会など
共同利用促進室	機器教育・安全技術教育グループ	機械工作担当	機械工作学生実習、機械工作技術講習会、機械工作学生チューデントショップ（学内開放）の運営
		ガラス工作担当	ガラス工作学生実習、ガラス工作技術講習会

リユース登録機器の利用者向け講習会の様子



ICP 講習会の様子



ICP 講習会の様子



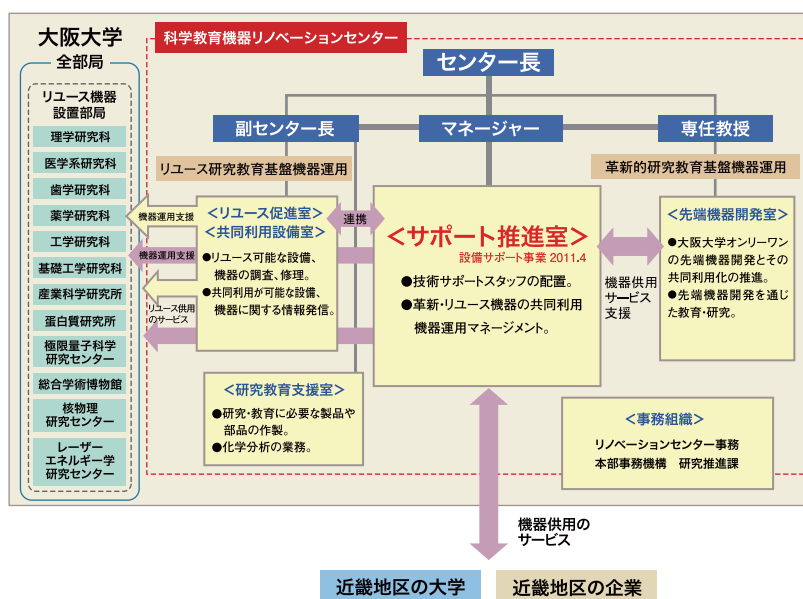
XRD 講習会の様子

おわりに

阪大スタイルのもったいないプロジェクトは、大阪大学が全国に先駆けて実施しているもので、研究機器整備と共同利用の「モデル」として全国の大学に波及してほしいと願っております。また、今年度よりリノベーションセンターでは、文部科学省運営費交付金特別経費（設備サポートセンター整備）により設備サポート事業を開始しました。この事業は限られた資源を有効活用し教育研究環境の整備を図るため、教育研究設備の有効活用に係わるマネジメント機能を強化するものです。本事業推進のため新たにリノベーションセンター

内にサポート推進室を設置して体制を強化しました。これまで全学的に行ってきたリユース機器の拡大・整備、および革新的研究教育基盤機器開発整備事業で開発した汎用性先端機器を含めた共同利用を推進します。

さらに、技術サポートスタッフを配置し利用者の拡大に対して即時に対応できる等の支援体制の充実を図ろうとしています。今後、この活動は学内に留まらず、近畿地区の大学等とも連携し科学教育機器の共同利用の拡大、促進を目指そうと考えています。皆様方の一層のご支援ご協力をお願い致します。



国立大学法人 大阪大学
科学教育機器リノベーションセンター
 Renovation Center of Instruments for Science Education and Technology, OSAKA UNIVERSITY

お問い合わせ

科学教育機器リノベーションセンター（豊中センター）

Tel 06-6850-6709 Fax 06-6850-6052

科学教育機器リノベーションセンター（吹田ブランチ）

Tel 06-6879-4781 Fax 06-6879-4781

E-mail info@reno.osaka-u.ac.jp

URL <http://www.reno.osaka-u.ac.jp>



役員室だより

2011.12 Vol.45

大学の動き

経営協議会を開催

今年度第3回経営協議会を11月25日(金)に、中之島センターで開催しました。学外委員9名、学内委員14名が出席し、約2時間にわたり審議、意見交換が行われました。意見交換では、本学の目指す教育の国際化並びに留学生の受入及び本学学生の留学

の現状を説明した後、各委員から、留学生にも日本の文化・歴史を理解してもらうことが本当のグローバル化ではないか、新たな制度を作るなど仕組みを工夫すれば海外に留学する学生が増えるのではないかなど様々な意見が出されました。

各室の検討状況

総合計画室

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、11月の役員会で次の事項が承認されました。

- 言語文化研究科の改組（平成24年4月1日）
 - ・世界言語研究センターとの統合
- 世界言語研究センターの廃止（平成24年3月31日）

大学留保ポストについて

平成24年度大学留保ポストの配分については、各部局等からの要望を受け、来年1月の総長・理事によるヒアリングを実施し、2月の役員会で決定する予定にしております。

箕面キャンパスの全学スペースについて

箕面キャンパスにおいて、外国語学部、世界言語研究センター及び言語文化研究科言語社会専攻を、それぞれ研究講義棟A棟、B棟及びE棟へ集約化することにより、平成24年度から管理棟、総合研究棟、研究講義棟B棟、C棟及びD棟に約1万㎡の全学スペースが確保されることとなっており、このたび各部局等へ照会した要望の結果を踏まえ、全学スペースの平成24年度以降の使用計画を決定いたしました。

部局の使用スペースの集約化や、これに伴う全学スペースの確保及び活用の取組みは、キャンパス整備本部、総合計画室及び施設マネジメント委員会の審議を経て実施したトップマネジメントによる本学で初めての取組みであり、既存施設の有効活用モデルケースとして、より一層の全学的な施設マネジメントを推進してまいります。

教育・情報室

博士課程教育リーディングプログラムの採択

本誌の8月号(2011/No.126、P22)でお知らせしておりますとおり、今年度から募集が開始された博士課程教育リーディングプログラムには、本学からは、オールラウンド型1件、複合領域型3件のプログラムを申請しました。

11月中旬に各プログラムのヒアリングが実施され、11月29日(火)に文部科学省のホームページに審査結果の公表があり、本学からは、以下の2件のプログラムが採択されました。

類型	プログラム名称
オールラウンド型	超域イノベーション博士課程プログラム
複合領域型(生命健康)	生体統御ネットワーク医学教育プログラム

本プログラムは全体では、オールラウンド型が3件、複合領域型が12件、オンリーワン型が6件の採択がありました。初年度はオールラウンド型が上限4億円、複合領域型が上限3億円、オンリーワン型が上限2億円です。

本プログラムは優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する

質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

本学においては、大学院等高度副プログラムや副専攻プログラムの実施により、学際的知識、複眼的視野、グローバルな視点を重視する大学院教育を展開し、また、大学院生を対象に高度教養教育を推進しているところですが、本プログラムの採択により、大学院教育のますますの充実が期待されます。

キャリアセミナー「理系大学院生の多様な研究キャリア」の開催

本誌の2月号(2011/No.123、P15)でお知らせしておりますとおり、本学においては、平成23年3月に教育・情報室の下にキャリア形成教育検討WGを設置し、学部生及び大学院生がそれぞれ潜在的に持つ可能性を最大限に実現できるような教育の構築を目指し、国内、国外の大学で行われているキャリア教育の研究、本学のキャリア支援教育の現状確認、国内、国外の各種インターンシップ等を通じた実地教育の推進、キャリアパス開発支援の全学制度等の検討を進めているところです。

その一環といたしまして、12月14日(水)に以下のとおりキャリアセミナー「理系大学院生の多様な研究キャリア」を開催いたしました。

当日は東島理事・副学長(教育担当)、馬場理事・副学長(応用研究・産学連携担当)の他、企業等から講演者を招いての講演やパネルセッションを行い、

87名の大学院学生等が参加し、活発な質疑応答などが行われました。

本セミナーでの講演や議論の内容なども踏まえ、今後より具体的なキャリア形成教育に関する検討を進めて行く予定ですので、各部局におかれましては、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



研究・産学連携室

産学官連携・知的財産担当者等基礎研修を開催

産学連携本部では、10月12日(水)、17日(月)、21日(金)、25日(火)、11月13日(日)の5日間にわたり「産学官連携・知的財産担当者等基礎研修」を開催しました。

この研修は、学内の産学官連携・知的財産関連業務に従事する教職員を対象に、業務に必要な知識の習得、実務能力の向上を目的として開催しています。

本年度の基礎研修では、学内外の講師により4日間で、「産学官連携の制度・意義と、事務職員の役割」、

「事務手続き上の留意事項」、「大阪大学における産学連携の取組み」、「安全保障輸出管理」、「産学官連携と国立大学法人会計」、「産学・社学連携等の経験から」、「知っておきたい契約の基礎知識」、「利益相反マネジメント」、「知的財産管理」をテーマに講義・演習を実施し、5日目は修了試験として、知的財産管理技能検定3級を団体受験しました。試験結果は平成24年1月に発表される予定です。



産学官連携・知的財産担当者等基礎研修

評価室

平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果の公表

第2期中期目標期間の初年度となる平成22年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学では、教育研究等の質の向上と業務運営の改善・充実に積極的に取り組んだ結果、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいると評価いただいたとともに、項目別である「業務運営の改善・効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他の業務運営」の全ての事項について、「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」との評価を受けました。

また、平成21年度評価結果で指摘された研究費の

不正使用については、今後もさらに継続して不正使用防止に努めることが期待されるが、指摘に対する取り組みは行われているとの評価を受けました。

各室・各部局におかれましては、業務実績報告書の作成に協力いただき、ありがとうございました。今後も中期目標・中期計画の達成に向けて、着実に取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

なお、評価結果全文については、以下のとおり、ホームページに掲載していますので、ご覧ください。
(http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files_hyouka/hyoka_h22.pdf)

【評価結果抜粋】

1 全体評価

大阪大学は、国立大学法人化に際して「大阪大学憲章」を制定し、地域・市民の負託に応えること、学問の自主・自律性の尊重を礎として、創造的・先進的な教育研究を将来に亘って追求していくこと、有為な人材を育成し社会に輩出すること、そして世界に冠たるリーディング・ユニバーシティであることを目標としている。第2期中期目標期間においては、基礎研究に深く根を下ろし、かつ学知の新しい地平を切りひらく先端的な研究をさらに推進することによって、世界最高レベルの研究拠点大学として、その国際的なプレゼンスを示すことなどを目標に定めている。

この目標達成に向けて総長のリーダーシップの下、未知の融合研究領域の創出、大学院レベルでの高度教養教育の重視、産学連携と社会連携の両輪で行う社会貢献の推進を積極的に実施しており、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、教育基盤整備本部、多様な人材活用推進本部、情報基盤本部の設置による総長の特命事項の機動的な体制を構築し、大学留保ポストによる若手研究者の支援、男女共同参画体制の強化などに取り組んでいる。

財務内容については、大阪大学未来基金（大学）への申込方法の多様化と充実などによる自己収入の確保等に取り組んでいる。

自己点検・評価については、第1期中期目標期間の教育研究活動の実績を経年的に取りまとめた資料を作成し、予算配分等に活用するなど、大学運営の改善・充実に結びつけている。

環境への取組として、電力の可視化工事を行うとともに、外灯を省エネルギータイプに更新するなどの取組によりCO₂排出量を抑制している。

教育研究の質の向上については、部局横断型教育プログラム「大学院等高度副プログラム」の実施、学部及び大学院で英語による授業のみで学位を取得できるコースの開始、グローバル COE プログラムなどの重点的プロジェクト研究の推進、企業の研究組織を大学内に組織として設置する「協働研究所」制度の構築などに取り組んでいる。

2 項目別評価

業務運営・財務内容等の状況	
(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	4
(2) 財務内容の改善に関する目標	4
(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	4
(4) その他業務運営に関する重要目標	4

中期計画の達成に向けて
 5：特筆すべき進捗状況にある
 4：順調に進んでいる
 3：おおむね順調に進んでいる
 2：やや遅れている
 1：重大な改善事項がある

部局達成状況評価に係る評価室と部局との意見交換の実施について

各部局の中期目標・中期計画を達成するための支援等を行うことを目的として、毎年度実施している部局達成状況評価について、今年度は、新たに部局と評価室とのコミュニケーションの充実を図ることにより、部局の教育研究活動のさらなる展開に役立てていただくことを目的として、全部局を対象として、評価室と部局との意見交換を実施しました（10月20日(木)、21日(金)、24日(月)、26日(水)：計4日間）。

当日は、部局内の評価体制や自己点検・評価等の

実施状況のほか、PDCAサイクルの実現に向けた取り組み状況などについて、活発な意見交換や質疑応答が行われました。



各部局におかれましては、ご協力いただきありがとうございました。

財務室

平成23年度予算補正（第2次）について

平成23年度予算補正（第2次）が承認されました。

その内容は、附属病院収入の収入増、政府補正予算第3号の予算措置による増などに伴い、予算の補正を行うものです。

平成 23 年度 予算補正（第 2 次）

（単位：千円）

区 分	予算額 (1 次補正後)	補正額	改予算額	備 考
収 入				
運営費交付金	50,455,119	818	50,455,937	
一般運営費交付金	39,423,022	818	39,423,840	政府補正予算第 3 号に伴う増（震災に係る授業料等の免除分）
特別運営費交付金	3,882,496	0	3,882,496	
特殊要因運営費交付金	4,259,263	0	4,259,263	
附属病院運営費交付金	1,985,673	0	1,985,673	
業務達成基準対象事業等運営費交付金	904,665	0	904,665	
授業料、入学料及び検定料収入	13,174,934	93,037	13,267,971	学部学生の休学者数の減、博士後期課程の在籍者数の増、政府補正予算第 3 号に伴う減（震災に係る授業料等の免除分）
附属病院収入	31,249,009	2,015,966	33,264,975	入院病床稼働率の上昇、外来患者数の増（医病 1,952,265） 外来患者数の増（歯病 63,701）
雑収入	1,288,384	127,303	1,415,687	学内研究施設利用の増等
計	96,167,446	2,237,124	98,404,570	
寄附金収入	4,450,144	0	4,450,144	
産学連携等研究収入	29,245,240	94,488	29,339,728	受託研究費の増、科学研究費補助金に係る間接経費の増等
版権及特許権等収入	114,308	△ 10,667	103,641	実績の伸び率低下に伴う見込額の減
計	33,809,692	83,821	33,893,513	
施設整備費補助金	3,289,512	1,529,820	4,819,332	政府補正予算第 3 号に伴う増（耐震化）
国立大学財務・経営センター施設費交付金	148,000	0	148,000	
長期借入金	861,616	0	861,616	
設備整備費補助金	222,959	0	222,959	
計	4,522,087	1,529,820	6,051,907	
合 計	134,499,225	3,850,765	138,349,990	
支 出				
人件費	46,427,954	0	46,427,954	
役員人件費	185,701	0	185,701	
教員人件費	27,401,624	0	27,401,624	
職員人件費	14,939,590	0	14,939,590	
退職手当	3,901,039	0	3,901,039	
物件費	52,473,542	2,298,393	54,771,935	
管理運営経費	8,042,658	0	8,042,658	
教育研究基盤経費	6,872,712	0	6,872,712	
診療経費	20,209,110	2,015,966	22,225,076	附属病院収入より
事項指定経費	531,572	0	531,572	
個別収入対応経費	829,085	134,657	963,742	授業料等収入より △ 705 千円、雑収入より 135,362 千円
概算要求事項経費	4,661,229	0	4,661,229	
債務償還経費	5,588,126	0	5,588,126	
戦略的経費等	4,945,385	147,770	5,093,155	授業料等収入より 94,560 千円（政府補正予算第 3 号（震災に伴う授業料等の免除分）818 千円を含む）、雑収入より △ 8,059 千円、産学連携等研究収入（全学間接分）より 61,269 千円
業務達成基準対象事業費等	793,665	0	793,665	
計	98,901,496	2,298,393	101,199,889	
寄附金支出	4,420,034	0	4,420,034	
産学連携等研究費	26,541,300	33,219	26,574,519	産学連携等研究収入（全学間接分 61,269 千円を除く）より
版権及特許権等経費	114,308	△ 10,667	103,641	版権及び特許権等収入より
計	31,075,642	22,552	31,098,194	
施設整備関係経費	4,057,432	1,529,820	5,587,252	施設整備費補助金より
病院特別医療機械整備費	241,696	0	241,696	
大型特別機械整備費	0	0	0	
設備整備関係経費	222,959	0	222,959	
計	4,522,087	1,529,820	6,051,907	
合 計	134,499,225	3,850,765	138,349,990	

* 今後の人件費所要額減による予算額については、総長の決定により戦略的経費等に組み入れることとする。

平成 24 年度戦略的経費（総長裁量経費・教育研究等重点推進経費）について

平成 24 年度戦略的経費（総長裁量経費・教育研究等重点推進経費）については、これまで経費区分ごとに公募を行っていたものを戦略的経費として 1 本化し、また、新規・継続の区分をなくすなど、従前の公募方法の見直しを行い全学に照会を行いました。今後、部局等から提出のあった要求事項について、

総長が採択したものは総長裁量経費にて措置し、総長裁量経費で措置された事業を除く全ての事業については、教育研究等重点推進経費の対象事業として、財務室において書類審査等を行い、執行計画案を策定する予定です。

平成23年度財務面からの検証について

財務室では、本学の教育研究等活動の更なる向上にむけて、効果・効率的な予算配分となっているかなどの検証に取り組んでおり、平成22年度に戦略的経費等で措置した設備導入事業について、設備導入によって当初予定の効果が得られているかなどを検証するため、設置場所等において現地調査を実施しました。



資金運用について

資金運用ワーキング・グループでは、資金需要を考慮した適切な運用金額、運用期間及び運用形態を検討し、長期・短期の資金運用の組み合わせによる効率的な資金運用を行っております。

キャッシュフローに基づいた積極的な運用計画を

策定し、効率的な資金運用を行った結果、11月末での短期資金運用額は前年度と比較して250億円増加し、1,215億円となりました。

運用益については、長期・短期合わせて5千3百万円を越える額を見込んでいます。

人事労務室

災害応急作業等手当の創設について

東日本大震災の被災地においては、多くの本学教職員が、その救援活動等に従事しています。このたび、大学としましては、これら教職員の労に報いるため、新たに「災害応急作業等手当」を創設することとしました。

この手当は、東日本大震災に対処するために、大学の命を受け、本務として行う作業（診療及び看護

業務等を含み、休暇中における個人的な救援活動等の作業や個人の調査研究等目的で行う作業等を除く。）に従事する（した）教職員に対し、従事した区域に応じて日額で1,000円から40,000円までを支給するというもので、本年3月11日に遡り、対象者への支給手続きを進めます。

手術部（中央手術室）勤務の看護職員を基本給の調整額支給対象とすることについて

本学医学部附属病院手術部及び歯学部附属病院中央手術室に勤務する看護職員については、職務の複雑さ等の労働条件が、同じ職務の級に属する他の教職員と比べて著しく特殊であることから、このたび

大学は、これら看護職員を基本給の調整額の支給対象とすることとし、関係就業規則の改正を行いました。この改正は、平成24年1月1日からの施行を予定しております。

「原則として勤務を命じない時間」の制度化について

教職員の勤務時間に関し、所定労働時間の途中に「原則として勤務を命じない時間」（15分間）を置くことについては、その試行結果の検証等について既にお知らせしている（2011年10月号参照）ところです。

この度、所定労働時間の途中に「原則として勤務を命じない時間」（15分間）を置くことを制度化する関係就業規則の改正を行い、本年12月1日から施行することとしました。

大学としては、このようにその時々状況に応じ、適切な労働条件となるよう今後とも様々な検討を進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

広報・社会学連携室

広報連携プランを策定中です

10月17日(月)に開催された広報基盤整備本部会議において、総長から広報の基本方針を「世界を意識した広報を基本とし、大阪大学ブランドを高めることを目指す」とする旨表明がありました。

この方針を実現するため、広報・社会学連携担当理事を座長とする「広報連携プラン作成WG」を設置し、①「大阪大学ブランド」を高めるための全学的な広報態勢、②広報活動の効率化および情報の集約化のための枠組み、③大学広報の望ましい在り方、の具現化を目指した広報連携プラン策定のため議論しております。WGは、各室長からの推薦を受けた関係者がメンバーとして参加し、各室のおこなっている広報業務の洗い出しや、現在抱えている問題点等を議論し、大阪大学としてどのような広報態勢が望ましいのか、活発な意見交換を進めております。

WGでは、本部事務機構内の広報態勢の在り方について検討を進めておりますが、将来的にはすでに運用している「広報ネットワーク」を活用し、部局

との連携を強めて参ります。

大阪大学を広く世界の方々に知っていただくためには、大学広報に対する責任感「広報マインド」を持ち、それぞれのミッションにあたらなければなりません。大阪大学ファミリー全ての人が「広報マインド」を持ち、受け手の立場に立った情報発信、公聴を行う広報態勢づくりを目指します。



第1回広報連携プラン作成WG（11月18日開催）

大阪大学21世紀懐徳堂、大阪音楽大学連携支援センター及び豊中市による連携協力事業の覚書取り交わしについて

大阪大学21世紀懐徳堂、大阪音楽大学連携支援センター、豊中市の3者は、文化・教育等のさまざまな分野において、人的交流および知的・物的資源の相互活用その他の連携事業をすすめ、それぞれの活動の充実を図るとともに、地域社会の持続的な発展に資することを目的とした覚書を、平成23年11月1日に取り交わしました。3者は今後、演奏会、対談、レクチャーなど、音楽を切り口とした様々なスタイルで、地域と大学・学生の交流をはかっていきます。

また、この連携協力事業の第1弾として12月18日(日)に「第1回大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画『待兼山クリスマスコンサート2011』」を大阪大学会館講堂で開催しました。大阪大学からは人気バンドMoscow Mule（モスコミュール。アカペラサークルinspiritual voices所属）が、大阪音楽大学からは世界的に評価の高い大阪音楽大学クラリネットオーケストラが出演し、学内外からの聴衆400名を、音楽の力で魅了しました。

国際交流室

新たに締結した大学間学術交流協定

大学間・部局間の学術交流協定数については飛躍的に伸びてきたこと、一方で、これまでの交流実績を踏まえ戦略的に地域と大学を検討していく方向性について前回触れましたが、8月の就任以後、新規の大学間学術交流協定締結校として米国のライス大

学と締結いたしました。ナノジャパンプログラムを通じ、ライス大学側との交流も活発化したいと思います。本学学生の積極的な留学希望が出てくることを期待しています。

二国間学長会議

10月12日(水)から14日(金)の3日間の予定で、京都大学ならびに立命館大学が主催校となり第7回の日中学長会議が京都市内を会場に開催されました。

この日中学長会議は、文部省(当時)と中国教育部での教育・学術交流に関する5か年計画の合意に基づき平成12年度に第1回が開催され、7回目を迎える今回の会議には、日中双方37大学・関係機関の学長・副学長等が出席し、会議二日目の午前中に基調講演を、午後から「大学の質の向上について」、「大学の国際化」の二つの分科会が開かれ、「大学の国際化」分科会において、平野俊夫総長より大阪大学の国際化の取組に係る3つの観点の説明が行われ、分科会参加大学の出席者からは、日中の大学の状況について熱心な意見交換がなされ、学生をいかに海外に送り出すか、何をもって国際化と定義するのか、それぞれ留学生に対する日本語教育、中国語教育の重要性等、熱心な議論が交わされました。

また、会議初日には、中国側大学との個別懇談の時間が設けられ、本学は南京大学をはじめ3大学と各大学の状況説明などの懇談を行いました。

翌月11月1日(火)には、名古屋大学を会場に日本-ウズベキスタン学長会議が開催されました。この会議は、国際化拠点整備事業に採択された名古屋大学が、ウズベキスタンに海外共同利用事務所を設置したことを契機に企画されたもので、日本側は16大学の学長・副学長が、またウズベキスタン側は10大学の学長・副学長が出席され、協議を通じて日本の大学との協力関係構築に向けた意欲を感じました。

グローバル化が進み、国と国との垣根がなくなる一方で、このように2国間で深化した協力関係を築こうという動きも活発化しており、今回取り上げた会議以外にも、日英、日独、日越間他の学長会議が今後開催される予定です。

大阪大学国際化拠点整備事業を巡る動き

平成21年にグローバル30(現「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」)に採択され、以後、インターナショナルカレッジの設置、学部英語コースならびに大学院英語コースを4コース開講してきましたが、5年間事業の中間にあたる今年、プログラム評価委員会による「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)中間評価に係る実地検査」が11月14日(月)に実施されました。事業の進捗に係るヒアリング、コース入学生のインタビューや施設の見学等が行われました。正式の中間評価は年明け2月頃になる予定です。

また、阪神地区大学国際化推進ネットワークの取組の一環として、12月10日(土)に豊中キャンパスにおいて経済界からの代表による講演、4大学の留学生のプレゼンテーションなど産業界と留学生の橋渡しとなる「学生グローバルコンピテンスワークショップ」を開催いたします。このワークショップに先立ち、学生主体の実行委員会を立ち上げ協議を進めています。学生自らが企画し実行にもっていくこのワークショップを力強くサポートしていきたいと考えています。

EU エラスムス・ムンドゥスプログラムへの参画について

大阪大学は、EUのエラスムス・ムンドゥスプログラムに参画しており、共同修士課程プログラムとして文学研究科(EUROCULTURE)ならびに言語文化研究科(MULTIELE)のプログラムが進行しています。

この二つの研究科に加え、工学研究科が平成22年より5年間の予定で光通信およびフォトニックネットワーク分野において教育研究活動を行っているイタリアの聖アンナ高等大学、ドイツのベルリン工科

大学、英国のアストン大学と共に修士課程プログラム“Masters on Photonic NETWORKS Engineering (MAPNET)”を実施しており、10月から留学生を受入、授業を開始しました。

これら3つのプログラムに参加する本学は、エラスムス・ムンドゥスに参加する日本の大学の中で最も積極的な大学であり、プログラム内容の更なる充実を期待しています。



創立 80 周年記念事業



原点へ 未来へ

大阪大学は 2011 年に創立 80 周年を迎えます



Sixth Photonics Center Symposium "Nanophotonics in Asia 2011"

平成 23 年 9 月 19 日～9 月 21 日（志摩観光ホテル）
大阪大学フォトニクスセンターの第 6 回国際シンポジウムは、フォトニクスでイノベーション創出を目指す文部科学省フォトニクス先端融合研究拠点（総括責任者：平野俊夫総長-2016）のシンポジウムであると同時に、大阪大学、中国科学院理化技術研究所、台湾国家実験研究院 儀器科技研究中心の三拠点でスタートした日本学術振興会アジア先進ナノフォトニクス研究教育拠点（-2015）のシンポジウムでもあり、アジアにおけるナノフォトニクスにフォーカスしています。創立 80 周年記念国際シンポジウムシリーズの一環としても位置付けられ、大阪大学を代表して

高橋明国際交流担当理事・副学長から挨拶がありました。中国、台湾より 22 名、大阪大学、神戸大学、徳島大学、理研より約 77 名が参加し、三国・地域の若手研究者・大学院生が各々メタマテリアル、2 光子過程ナノ構造形成、プラズモニックデバイスのベストポスターアワードを得たほか、ナノフォトニクスの活気ある発表・議論によって研究交流、人的交流が進みました。今年度は、引き続き中国北京、台湾台北で開催されます。

大きな画像は以下でダウンロードできます。
<https://sites.google.com/site/ouparc/photos>



（国際交流オフィス国際交流課）

創立 80 周年記念事業学生イベント「世界に広がる大阪大学同窓会ネットワーク」開催

11 月 5 日（土）本学コンベンションセンターにて創立 80 周年記念事業学生イベント「世界に広がる大阪大学同窓会ネットワーク」が開催された。各国留学生会代表の学生達が綿密に準備をし、「原点へ・未来へ～世界に影響を与える元阪大留学生がグローバルな視点で阪大と阪大生へ語る～」というテーマで、国内外で活躍中の阪大出身元留学生 8 名から、留学当時の話やグローバル化の進む中での阪大や阪大生への率直な意見を伺い、ネットワーク形成の大きな発展を確信する会となった。



（国際教育交流センター）

第43回大阪大学21世紀懷徳堂講座創立80周年記念スペシャル「芸術する学問」シリーズ開講

創立80周年を迎えた本年、大阪大学の伝統ある公開講座「大阪大学中之島講座」を「大阪大学21世紀懷徳堂講座」へと改称し、創立80周年記念スペシャル版として「芸術する学問」シリーズと題し、市民の皆様とともに文化力の醸成をはかることを目的に、

学問と演劇、音楽、落語を融合させたレクチャー＆パフォーマンスというスタイルで、3講座を開講しました。

いずれの講座も盛況で、満員の会場は熱気に包まれていました。

10月8日(土)は、「歴史を見る視点」と題し、大阪大学会館21世紀懷徳堂スタジオで開催しました。劇団「青年団」による「ヤルタ会談」上演と、コミュニケーションデザイン・センターの平田オリザ教授、桃木至朗教授による芸術家と歴史学者の「歴史」に対する眼差しと差異と同一性を探る対談が行われ、約90名の受講生が参加しました。



11月4日(金)は、「バーゼンドルファー1920 演奏とお話」と題し、大阪大学会館講堂で開催しました。講師には文学研究科の伊東信宏教授、ピアニストには、お茶の水女子大学の小坂圭太准教授を迎え、歴史あるピアノ「バーゼンドルファー1920」にまつわる講義と演奏並びに対談が行われ、約230名の受講生が参加しました。



11月27日(日)には、「中之島は文化の蔵屋敷」を中之島センター佐治敬三メモリアルホールで開催しました。高島幸次招へい教授による講義「中之島の履歴書」に3名の落語家、林家花丸さん、月亭八天さん、桂九雀さんによる中之島界限を舞台とした落語3席をミックスし、後半は、橋爪節也総合学術博物館長も加わり、トーク「おちのない中之島放談」で、「大阪」「中之島」の今昔を比較しながら、我が町を考察しました。会場には、約200名の受講生が参加しました。



(広報・社学連携オフィス広報・社学連携事務室)

留学生・外国人研究者、 そしてその家族をサポート

大阪大学国際教育交流センター



国際教育交流センターでは、留学生へのサポートは勿論のこと、研究者、そしてご家族へのサポートも充実してきています。その中から本稿ではサポートオフィス利用者と「いちよう日本語プログラム」の受講者の生の声を紹介します。

■ サポートオフィス



サポートオフィスは、ビザ関連手続きや日本での住宅探しを始め、さまざまな支援を行っています。来日前や来日直後の不安が多い時期に、分かりやすい情報の提供を心掛けるとともに、皆さんが笑顔になれるような雰囲気を大切にしています。Alejandor PENA AYALAさん（メキシコ出身、産業科学研究所外国人招へい研究員）は、サポートオフィスの印象を次のように述べておられます。

“All the staff is very kind and well disposed to provide support to scholars. They speak English very well, so it is easy to set and hold communication, make questions and receive instructions. In addition, all the documents and information provided by the Support Office are complete, enough and updated. I think that such kind of support office in any university is necessary to provide help, assistance and information to students and scholars.”



「スタッフはとても親切で、研究者をサポートすること

に熱意を持っています。全員英語が話せるので、コミュニケーションをとるのがとても容易です。質問もしやすく、アップデートされた資料と情報を過不足なく得ることができます。留学生や研究者が必要としている支援や情報を提供するこのようなオフィスはどの大学でも必要だと思います。」

また、サポートオフィスでは、留学生や外国人研究者本人のご家族のサポートにも力を入れています。Nhu Ha Vy NGUYENさん（ベトナム出身、工学研究科国費留学生）は、



Nhu Ha Vy Nguyen さんご夫婦

新規来日者向けオリエンテーションに参加された際に、ご主人を日本に呼び寄せるための手続き¹⁾について相談されました。Ha Vyさんから次のようなコメントをいただきました。

“I had many problems due to different language and different culture. The support office helped me to fill in all necessary form in Japanese and give me detailed instructions to apply document. They also give me some advices for my apartment.”

「私は、言葉や文化の違いからいろいろな困難に直面していました。サポートオフィスでは、必要書類を日本語で作るのを手伝ってもらったり、申請に必要な詳細情報を教えてもらったりしました。また、アパートについてもアドバイスをもらいました。」

宿舎業務におけるUR賃貸住宅に関する支援もまた、外国人研究者とご家族対象へのサービスとしては代表的なものです。UR都市機構との包括協定締結以来²⁾、連帯保証人・敷金・礼金の減免、収入基準の緩和や提出書類の簡素化が

実現し、NPO 法人による家具家電貸与や生活相談などの特典も利用できるようになりました。現在、箕面市にある UR 団地に住まわれている Fiona CREASER 助教（英国出身、人間科学部 G30 英語コース）にコメントをいただきました。“The services really helped my family with regards to housing and advice on doctors in the area where I live. The staff are so helpful and always put a smile on my face every time I see them. I would recommend anyone new to Osaka or Japan to visit their office for help.”

「サポートオフィスのサービスは住居や地元の医療情報に関して大変力になってくれました。スタッフはたくさん手助けをしてくれ、私をいつも笑顔にしてくれます。大阪または日本が初めての方たちには、困ったことがあれば、サポートオフィスを訪ねてみることをお勧めします。」



UR 住宅にて

■ いちよう日本語プログラム

「いちよう日本語プログラム」は、全学の外国人研究者、留学生・外国人研究者の家族（配偶者および18歳以上の子）を対象とした、生活のために必要な日本語学習支援プログラム（有料）です。吹田キャンパスにおいて、12週間計24回の授業を、春学期および秋学期にそれぞれ開講し、初めて日本語を学習する「日本語入門（Aコース）」と、50時間程度学習経験があり、ひらがなやカタカナが読み書きできる程度から始める「日本語初級（Bコース）」の2コースが設定されています。本プログラムの特徴は、日本語学習の機会を提供するとともに、外国人生活者同士として相互に情報交換ができる「居場所」としての機能も果たすことによって、日本滞在のQOLの向上も目指していることにあります。2011年11月からスタートした秋学期受講中の2名に感想等を聞きました。

Dakron PISSUWAN さん（タイ出身、免疫学フロンティア研究センター外国人招へい研究員）

〈日本語入門（Aコース）受講中〉

今の研究チームは、一人の日本人以外、メンバーは全員外国人なので、研究に関しては英語でコミュニケーションできます。しかし、まったく日本語の知識がなかったので、

買い物などで困っていました。いちよう日本語では、日常生活で使える日本語の基礎を勉強するので、学外の買い物などはもちろん、研究センターの日本人スタッフとのコミュニケーションでも大変役に立っています。来学期は引き続き B コースで勉強したいと思っています。



Wijciech RUCHNIEWICZ さん（ポーランド出身、文学研究科外国人研究者の家族（配偶者））

〈日本語初級（Bコース）受講中〉

大学時代に計2年間日本語を勉強したことがあるのですが、10年間使っていなかったので忘れていました。独学だと何から手をつければよいかわかりませんが、授業を受けることによって、勉強する焦点が明確になり、質問もできるので、徐々に記憶がよみがえっているところです。いちよう日本語プログラムは最高の機会だと思います。他の機会も利用して、日本語でコミュニケーションするよう努めています。



国際教育交流センターでは、研究・勉学の環境整備や地域における国際交流の推進、ひいては国際友好に寄与できるように、今後も大阪大学の留学生や外国人研究者およびその家族向けへの支援を続けていきます。

注1) サポートオフィスでは、在留資格認定証明書（CESR）Web申請システムを利用し、大阪大学で受け入れるすべての留学生・外国人研究者・ご家族（同時入国時）のCESR代理申請手続きをしています。また、ご家族の呼寄せ時には、申請書類作成のお手伝いをしています。

注2) 大阪大学は、留学生向け旧協定（2004年締結）の対象者を外国人研究者にも拡大し、2010年4月にUR都市機構と包括協定を締結しました。

国際教育交流センター

HP: <http://www.isc.osaka-u.ac.jp/>

サポートオフィス

吹田（ICホール2階）

06-6879-4750（在留資格関係・その他）、

06-6879-4748（宿舎・GCN関係）

豊中（学生交流棟2階）

06-6850-6428

E-mail: supportoffice@office.osaka-u.ac.jp

HP: <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/osaka-ip/supportoffice/index-j.php>

いちよう日本語プログラム

E-mail: icho@isc.osaka-u.ac.jp

工学研究科が高知県佐川町の小学校で出前授業を実施

9月6日(火)～7日(水)に工学研究科の久保 等技術専門職員が、高知県佐川町の小学5年生73名に出前授業を実施しました。

授業は電磁石をテーマにコイルを使い、黒板から音楽を流す実験等を行い、参加した生徒のみなさんからは「普段の授業でできない事ができて実験が好きになった。」「家に帰ったら家族に話したい。」等の感想をいただきました。今回の授業は佐川町との連携協力に関する協定の一環として実施されたもので、学習意欲向上や理科離れの対策として効果的な取り組みとなりました。

(工学研究科・工学部)



平成23年度 大阪大学係長研修(新任)実施

9月5日(月)～7日(水)までの3日間、大阪大学係長研修(新任)がコンベンションセンターで行われました。

この研修は新しく係長(相当職)になった者39名(出向者含む)を対象に、係長に求められる役割を学ぶために実施されたものです。

今年度は特にケーススタディとして、係長が実際に抱えている事例や起こる可能性のある問題・課題を取り上げたことで、活発な意見交換が行われ、現実には起こりうる問題への解決策について実践的に学ぶことができました。研修では、受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。今後の係長としての活躍が十分に期待されます。(総務企画部人事課)



大阪大学フォーミュラレーシングクラブが全国大会で3位入賞

大阪大学フォーミュラレーシングクラブは、第9回全日本学生フォーミュラ大会(9月5日(月)～9日(金))において、国内外合わせて87校の参加校の中、総合3位に入賞しました。

昨年の「総合優勝」にこそ及ばなかったものの、第1回大会への参戦から9年間にわたる、大阪大学の教職員の皆様や多数のスポンサー企業様のご協力とメンバーの熱意と努力により着実に実績をあげております。次年度は同大会だけでなく、海外大会へも挑戦し、大会理念であり、自分達の共通理念である「次世代の技術者育成」のもと、一層の成長を目指したいと考えています。(工学研究科・工学部)



チームメンバーと大会参戦フォーミュラカー「浪速11」

日韓高校生交流事業

9月7日(水)と27日(火)、文部科学省の委託で独立行政法人国立青少年教育振興機構による日韓高校生交流事業が国際教育交流センターで行われました。韓国で日本語を学び日本留学を希望する高校生、指導者、駐大阪大韓民国総領事館の領事等、のべ72名が本学を訪れました。国際教育交流センターでは、教員がDVDで本学を紹介し、また、韓国人留学生会会長等が大阪大学での研究生生活の紹介と質疑を行いました。高校生からは、大学受験、大学生活、日本の教科書等の質問があり、阪大生との率直なコミュニケーションが行われました。

(国際教育交流センター)



薬学部 新入生合宿研修

薬学部新入生合宿研修が、9月29日(木)、30日(金)の日程で、京都府立ゼミナールハウスで新入生82名、教職員12名が参加して実施されました。

これは、専門教育の授業が始まる1年次2学期の開始直前に、薬学部の現状と将来に対する認識の再確認とともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として行っているものです。

研修では学生向けに履修に関する説明に始まり、少人数のグループで、学生と教員が学生生活や薬学の未来について話し合うなど、実りある研修となりました。

(薬学研究科・薬学部)



大阪大学大学院理学研究科附属 「基礎理学プロジェクト研究センター」発足

10月1日(土)に「理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター」が発足いたしました。

理学研究科は基礎理学を担う部局として、基礎的研究や萌芽的研究を重点的に推進しており、その中から発展が期待される研究は、プロジェクトとしてさらに研究が進められています。「基礎理学プロジェクト研究センター」は従来の枠にとらわれない研究環境を実現する新たな教育研究施設として、「学際理学部門」、「プロジェクト研究部門」、「産学連携部門」、「放射線管理部門」の4部門からなり、基礎的・萌芽的研究の支援を推進することにより基礎理学の発展に務めます。

(理学研究科・理学部)



除幕式の様子

法学研究科附属法政実務連携センター・学生支援室主催 公開講義「こうして8人が選ばれた:名物社長の採用面接～就活を通じて『世界に通用する日本人』とは何かを考える～」

10月7日(金)、法学研究科附属法政実務連携センター・学生支援室では、NHK制作局第1制作センター経済・社会情報番組組専任ディレクター片岡利文氏をお迎えし、公開講義を開催しました。

当日は、現在の日本が陥っている問題を捉えた上で、21世紀の国際社会において日本と日本人が果たすべき役割は何かということ、また、そのような課題に取り組む一企業を例に、日本企業のあるべき姿や就職活動において何が求められているのかをお話いただきました。

(法学研究科・法学部)



工学研究科 博士前期・後期課程10月入学式挙行

工学研究科博士前期・後期課程10月入学式が、10月7日(金)に、銀杏会館内阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて挙行されました。文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム(前期及び後期課程)」に採択されている、英語特別プログラム・コース及びエラスムス・コース(MAPNET)に入学した外国人留学生と、後期課程10月新入生が出席しました。

初めに、掛下知行工学研究科長から新入生歓迎の式辞が述べられ、入学式出席者全員の紹介があった後、博士後期課程知能・機能創成工学専攻の金永錫さんが代表挨拶を行い閉会しました。

(工学研究科・工学部)



手話講習会を開催

10月13日(木)に障害学生支援ユニットによる手話講習会(初級編)が始まりました。

障害学生支援ユニットでは例年第2学期に手話講習会を開催してきましたが、「もっと手話を学ぶ機会が欲しい」という多くの受講者の声を受け、今年度は第1学期の入門編(全12回)に続き、第2学期に初級編(全10回)を開催することとしました。今回の初級編の受講者は19名で講習会初日には互いに教え合ったり、講師の冗談に笑いが起こったりとなごやかな様子がみられました。

(学生支援ステーション/学生部 学生・キャリア支援課)



手話講習会(初級編)の様子

大阪大学技術職員研修(第28回)実施

大阪大学技術職員研修(第28回)が、10月13日(木)、14日(金)、産業科学研究所において行われました。

この研修は、本学技術職員に対し、職務に関する必要な知識・技術等を広く修得させるとともに、自己啓発、相互啓発の機会を与えることにより、職員の資質の向上を図ることを目的として実施されたもので、15部局から29名の技術職員が参加しました。

今回の研修では、東日本大震災の発生を踏まえ、大学の安全対策や災害対応等に関連するプログラムが多く組まれました。学内外の教員による講義、技術職員講演・発表、先輩講話、パネルディスカッションやグループ別演習など、2日にわたる研修を、受講生全員が無事修了しました。

(総務企画部人事課)



学生交流学際融合教育セミナー開催

10月14日(金)、15日(土)の2日間、学生交流学際融合教育セミナーをコスモスクエア国際交流センター(大阪南港)で開催しました。同セミナーは、複眼的視野と学際的視点の涵養を目的とし、様々な研究科の学生が集い・議論するもので、今回は筑波大学および早稲田大学と共同で開催し、外国人留学生11名を含め37名の学生が集いました。参加した学生達は、「プロジェクト2021-10年後の社会と科学技術」をテーマとして、英語でのディスカッションも交えて、時おり各大学の担当教員のアドバイスを受けながら、活発に討論を行い、盛況のうちに2日間を終了しました。

(学際融合教育研究センター)



セミナーの様子

知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センター共催 公開講義「金融危機について」

10月18日(火)、知的財産センター・法学研究科附属法政実務連携センターでは、金融庁監督局長の細溝清史氏をお招きし、公開講義を開催しました。

様々なデータを用いて金融危機が世界、日本、金融機関、政府、家計などにどのような影響を与えているか、また今後の見通しなどについてお話し頂きました。その後の質疑応答では、金融情勢だけではなく、経済・行政を中心に幅広い課題について活発な意見が交わされました。

(知的財産センター、法学研究科・法学部)



英語特別コース入学式挙行

10月19日(水)に、英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期課程及び博士後期課程の入学式が、リニューアルした基礎工学国際棟において挙行されました。

式では、関係者45名が出席し、佐藤宏介教育担当副研究科長の司会のもと、岡村康行研究科長から式辞があり、平成23年4月及び10月に入学した12カ国28名のうち代表者4名による記念スピーチがありました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



平成23年度 部局長等による合同巡視の実施

10月17日(月)～10月21日(金)にかけて、平成23年度部局長等による合同巡視を実施しました。合同巡視は、安全衛生管理の重要性について理解を深めていただくとともに、当該部局における危険箇所等の改善に役立てていただくことを目的に毎年1回実施しています。当日は、各事業場の総括安全衛生管理者をはじめ、各部局長、安全衛生委員会委員、安全衛生管理部が参加し、合同で安全点検を行いました。

本学では、「安全衛生管理チェックシートを用いた各研究室等による自主管理」と「安全衛生管理部巡視員による第三者的チェック」を組み合わせた安全衛生管理システムを運用しています。今後ともチェックシートによる自主点検の継続と定期巡視へのご理解、ご協力をお願いします。

(安全衛生管理部)



尾山安全衛生管理部長(左)と
難波生命機能研究科長(右)

学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学会場)開催

10月19日(水)～10月21日(金)の3日間、附属図書館は国立情報学研究所との共催で、学術情報リテラシー教育担当者研修を総合図書館において開催しました。本研修は、全国の国公立大学の図書館職員を対象とし、学術情報リテラシー教育を企画・運営するための知識と技術を習得することを目的に実施するもので、平成16年度以降大阪大学を会場に毎年開催しており、今年は53名が参加しました。研修では、講義、実践報告のほか、活発なグループ討議も行われ、充実した3日間となりました。

(附属図書館)



グループ討議に熱心に取り組む受講者

第2回 こども科学の教室「スーパー光塾」開催

10月23日(日)、第2回こども科学の教室「スーパー光塾」が銀杏会館において開催されました。抽選で選ばれた小学4年生～6年生50名と保護者50名が参加し、学生・大学院生38名が先生として光の魅力を伝えました。

初めに河田聡フォトニクスセンター長の挨拶、そして「光のお兄さん」による全体講義、分光器の作成の後、子供たちは各会場に分かれ、光を使った工作、ゲーム、展示などを楽しみながら光科学に触れました。

(フォトニクス先端融合研究センター)



学生支援ステーション「Station Café（第4回）」開催

学生支援ステーションは10月26日(水)、第4回学生支援ステーション Station Café「カプラを体験してみよう!!! 一頭と心を少～しやわらかく」を、カプラの販売とカプラを通した教育に関する講演等を手がけるエル株式会社からインストラクターの方にお越し頂き、開催しました。

小さな長方形の木の板から自由に何かの形を作ったり、ただ高く積み上げたりするといった創作をきっかけに、学生どうしの交流がなされました。木の板がぶつかる際に出る音が素晴らしく、木琴の心地よいメロディが終始会場中に響いているようでした

(学生支援ステーション／学生・キャリア支援課)



カプラ体験の様子

平成23年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

10月26日(水)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて平成23年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。本講演会は、大阪大学安全衛生週間及び全国労働衛生週間(10/1～10/7)にあわせて開催しているもので、今年度は読売新聞大阪本社の永田広道・編集局科学部長をお招きして「危機管理広報のあり方」についてご講演いただきました。

講演では、事件や事故が発生した場合、その時々のタイミングで「分かったこと」「公表できること」は何かを常に考え迅速に社会に発信していくことが危機管理広報において大変重要であること、また、学究の場という公正・中立な立場から客観的な情報発信を行うことも大学に強く望むという内容に、参加者は真剣に聞き入っておりました。

(安全衛生管理部)



講師の読売新聞大阪本社・永田科学部長

平成23年度 大阪大学特志解剖体追悼法会実施

11月1日(火)、四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成23年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

追悼法会では、米田悦啓医学部長、脇坂聡園学部長、及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、神経機能形態学講座の遠山正彌教授から参列者に対して挨拶があり、厳粛な雰囲気のうち閉会となりました。

ここに改めて御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに、故人の御冥福を心からお祈りいたします。(医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部)



個人情報保護担当者等研修を開催

11月2日(水)、個人情報保護担当者等研修をコンベンションセンターにおいて開催しました。

本研修は、各部署で個人情報を取り扱っている職員を対象に、個人情報保護の重要性の理解や意識の高揚を図り、今後の業務における個人情報保護の取組みに活かすことを目的に実施しているものです。

今回は、NECシステムテクノロジー株式会社の中曽勝士氏を講師に迎え、個人情報保護の必要性和保護のための取組みポイントについて、様々な事例紹介をもとに興味深い話をわかりやすく解説いただき、約100名の参加者は熱心に聴講しました。

(総務企画部評価課)



国費学部留学生への大学進学説明会開催

日本語日本文化教育センターでは、11月4日(金)に、国費学部留学生に対して、大学進学説明会を開催しました。

説明会は、32の国立大学から説明者を招き、各大学の特色ある専門分野や地域の特徴などを説明するとともに、質疑応答を通じて詳しい情報の提供をするために実施しているものです。

当日は、文部科学省留学生交流室の長川英樹専門官および奥西峻介センター長の挨拶の後、参加大学による大学紹介があり、その後、個別会場に分かれての説明及び質疑応答が行われました。

留学生は各大学の説明に熱心に耳を傾け、教育内容や日頃の疑問点について積極的に質問を行い、「今後の進学先大学を考える上で大いに参考になった」などと好評でした。

(日本語日本文化教育センター)



附属図書館企画展特別イベントで講演&試飲会を開催

11月6日(日)「ミニレクチャー 竹鶴が求めたウイスキー その魅力と愉しみ方」を、総合図書館内図書館ホールで開催しました。これは、附属図書館で開催中の企画展『国産ウイスキーの父 竹鶴政孝 〜はじまりの場所〜』(会期：11月1～29日)の特別企画として実施したものです。

企画協力企業の支援を得て開催した前半の講演ではジャパニーズウイスキーの祖、竹鶴政孝のパイオニア精神溢れる足跡を辿り、後半ではその「竹鶴の求めた味」をテイスティングしました。60名を超える来場者は、竹鶴の情熱と「芳醇な香り」にしばし酔いしれていました。

(附属図書館)



試飲会の様子

第52回 まちかね祭

11月4日(金)より6日(日)までの3日間にわたり、豊中キャンパスにて第52回まちかね祭が開催されました。今回は天候に恵まれない日もありましたが、アカペラサークルによるライブなど、多数の学生団体による様々な企画が行われ、多くの方にご来場いただきました。また、本学の大学祭をリレーして開催している東日本大震災チャリティバザーでは、4万円余の収益を日本赤十字社へ寄付致しました。

最後に、この場を借りて大学祭の開催にご協力をいただいた関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

(大阪大学大学祭中央実行委員会広報局)



ともに学ぼう!!歯病フォーラム

歯学部附属病院では、11月7日(月)、弓倉記念ホールにおいて、教職員等を対象に、伏見工業高校ラグビー部総監督であり、当院のアドバイザーボード委員でもある 山口良治先生の「One for All All for One」と題した講演が行われ、指導者として第一線で活躍されてきた経験を踏まえ、チームワークの重要性や人材育成について具体例を交えた実践的な講演となりました。

会場には他部局からの参加者を含め、定員を超える約100名の参加者が詰めかけ、盛会のうちに終了しました。

(歯学部附属病院)



大勢の参加者を前に熱弁をふるう山口先生

平成23年度 大阪大学OJT育成者研修実施

OJT育成者研修が、11月7日(月)コンベンションセンターにおいて、今年度初めて実施されました。研修は、職場における部下育成で重要な位置にある主任・係長(相当職)にある職員に対し、育成者としての役割や、具体的なOJT(On the Job Training)を進めるうえで必要とされるコミュニケーション能力を修得することを目的として、実践的演習を中心に行われました。受講者からは実際の業務に活かせる内容であると好評でした。

(総務企画部人事課)



演習風景

意識改革に関する講演会を開催

11月8日(火)に意識改革に関する講演会が開催されました。

工学研究科Project“C”の取組事例からは教職協働をテーマにこれからの職員の役割について紹介がありました。また、山形大学の樋口浩朗氏からは楽しみながら専門性を高めることで大学職員の可能性を広げたご経験を、熱意を込めて講演され、若手職員から管理職までの約200名の参加者は先駆的な取組みに熱心に聞き入っていました。

実施後のアンケートでは、「気付きを得た」等の好意的な感想を多数いただきました。ご意見を踏まえながら、職員の意識改革に向けた取り組みを充実させていく予定です。

(総務企画部総長秘書室)



講演中の樋口浩朗氏

日本の大学で初! 大阪大学産業科学研究所が世界トップレベルのナノテク研究機関imecと包括的共同研究契約を締結

産業科学研究所は、11月16日(水)に、ナノテクノロジー／ナノエレクトロニクス研究分野で世界トップレベルのコンソーシアムである、ベルギーのimec(アイメック)と、共同研究契約と研究者の相互交流を積極的に推進する包括的共同研究契約を、日本の大学として初めて締結しました。今回の共同研究テーマは、ナノカーボンエレクトロニクス、バイオアプリケーション、プリンティッドエレクトロニクス、有機エレクトロニクス分野からスタートし、順次、医・工・情報連携テーマ等に拡大していく予定です。

本締結により、大阪大学のナノサイエンスとimecのナノテクノロジーとの相補的共同研究で、次世代産業の創生が期待されます。

(産業科学研究所)



imecのLuc van den Hove プレジデント／最高経営責任者と山口明人産業科学研究所長との調印式の様子

平成23年度 名誉教授会の開催

11月28日(月)、リーガロイヤルホテルの光琳の間にて、名誉教授と総長をはじめ役員、部局長等約130名の出席のもと名誉教授会が開催されました。

世話人の鈴木胖名誉教授の司会により会が始まり、名誉教授物故者への黙祷、新名誉教授紹介、工学研究科森田清三教授の講演、総長から本学の運営に関する抱負及び近況報告が行われました。

懇親会では総長からの出席部局長等の紹介の後、世話人の多胡圭一名誉教授の発声による乾杯で開宴し、会の最後には世話人の藪司郎名誉教授の発声により、世話人と歴代総長を中心に万歳三唱が行われ、盛会のうちに閉会しました。

(総務企画部総務課)



講演を熱心に聴き入る参加者

「業務改善アイデア賞」表彰式開催

「業務改善アイデア賞」表彰式が11月24日(木)、総長室において行われました。

今回は、平成22年10月から平成23年9月までに応募のあった9件のうち採用が決定された2件の提案に対して以下のとおり授与されました。

	所 属	氏 名	提 案 題 名
業務改善 アイデア賞 優秀賞	生命機能 研究科	三坂 誠 松尾 武宜	教員発注分の支払い手続きにおける購入 依頼書の確定及び検収入力処理の省略
業務改善 アイデア賞	言語文化 研究科	阪田 正雄 曾我 克成 新垣 哲也	研究生の除籍規程を定めること及び出納 規則第19条を改正することによる、不良 債権の貸倒損失に伴う事務処理の簡素化 について

なお、今年度も引き続き業務改善に資する提案を募集していますので、総務企画部総務課事務改革係 (soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp) までお寄せください。
(総務企画部総務課)



前列左から 三坂氏、平野俊夫総長、松尾氏、
後列左から 阿部顕三理事・副学長（事務改革
推進本部長）、阪田氏、曾我氏、新垣氏、
尾山眞之助理事・副学長（業務改善WG主査）

平成23年度 永年勤続者表彰式挙行

平成23年度永年勤続者表彰式が、11月24日(木)、コンベンションセンター会議室1において、被表彰者33名のうち27名の出席のもとに挙行されました。

式は、平野俊夫総長から被表彰者一人一人に表彰状が授与された後、式辞が述べられ、続いて被表彰者を代表して医学部附属病院の田鳥知子氏が答辞を述べ閉式しました。

今年度表彰された方は、次のとおりです。



松 原 弘 文 (本部)	永 原 奈緒子 (医病)
武 上 慎 二 (本部)	立 川 知 恵 (医病)
松 岡 達 也 (本部)	田 原 和 子 (医病)
浦 川 由香里 (本部)	清 川 知 子 (医病)
植 田 匠 (本部)	佐 藤 和 彦 (医病)
平 奥 秀 幸 (本部)	長谷川 浩 典 (医病)
青 木 茂 (外)	楠 秀 明 (医病)
山 田 貴 之 (医病)	神 崎 正 志 (医病)
田 鳥 知 子 (医病)	竹 田 雅 彦 (歯)
松 井 浩 子 (医病)	松 井 貴 志 (工)
瀬 尾 恵 子 (医病)	林 由樹雄 (工)
長 峰 明 彦 (医病)	岩 田 喜 一 (工)
大河原 幸 (医病)	花 木 信 夫 (工)
山 見 和 美 (医病)	高 木 謙 司 (基礎工)
垣 内 智 子 (医病)	田 中 秀 和 (基礎工)
和 田 和 子 (医病)	村 上 泰 世 (蛋)
丸 山 由美子 (医病)	

(総務企画部人事課)

理学研究科・理学部 消防訓練実施

理学研究科・理学部は、10月13日(木)に多数の教職員及び学生の参加のもと、消防訓練を実施しました。

この訓練は、教職員及び学生への防火・防災意識の高揚を図ることを目的として、例年実施しているものです。

今回は、地震を想定した避難訓練、放水訓練、消火器訓練を行った後、教育ビデオを視聴し、最後に安全衛生管理部梅田幸治特任教授から「安全な避難経路の確保について」と題した、ご講演をいただきました。

(理学研究科・理学部)



消火器訓練の風景

薬学研究科 消防訓練実施

薬学研究科では10月17日(月)、学生・教職員合わせて約200名の参加を得て、通報・避難・消火を連携した総合訓練を実施しました。

恒例の消火訓練では、薬学研究科に実際に設置されているものと同じ消火器を用いて、7名の学生が積極的に参加し、実のある訓練となりました。

今回の総合訓練で、火事に直面した場合の対応を学び、また防火意識の向上が図られました。

(薬学研究科・薬学部)



産業科学研究所で消防訓練を実施

産業科学研究所では、10月の大阪大学安全衛生強化月間に合わせて、総合的な消防訓練を10月19日(水)に茨木市消防署下井分署の指導のもと実施しました。

今回の訓練は、第2研究棟5階の研究室で火災が発生したことを想定した通報訓練及び避難訓練を実施した後、水消火器を用いて教職員・学生による消火訓練を行い、あわせて、AED(自動体外式除細動器)の操作についての説明を受けるものでした。

訓練には、教職員及び学生等約230名が参加し、火災予防意識の高揚と、火災発生時の対処心得及び救急蘇生を要する際のAEDの操作方法の習得が図られました。

(産業科学研究所)



平成23年度 本部事務機構火災・地震総合訓練実施

10月24日(月)、平成23年度本部事務機構火災・地震総合訓練を本部事務機構職員約180名が参加して実施しました。

訓練は、地震により火災と室内での閉じ込めが発生したことを想定し、「通報・救出・消火・避難訓練」、「水消火器による初期消火訓練」および「屋内消火栓使用訓練」を行いました。

訓練後、管理権原者である阿部顕三理事・副学長から3月に発生した東日本大震災を踏まえて、火災・地震による被害拡大の防止に努めて欲しいとの挨拶がありました。

(財務部資産決算課)



イシバシ・ハンダイ映画祭

11月19日(土)、昨年度に続き今年も「イシバシ・ハンダイ映画祭」が大阪大学会館スタジオで行われました。アニメ製作・クリエイティブプロデューサーの田中翔子さん、また飛び入り参加でアニメーション+ビジュアル・アーティストの早川貴泰さんをゲストにお招きし、石橋商店街・大阪大学をシーンに含む10分未満のショートムービー・全12作品を上映しました。

東日本大震災を受けて話し合った結果出てきたテーマ“つながり”をコンセプトにした今回のイベント。当日は雨模様にもかかわらず、本学・石橋商店街双方から多くの皆様にご来場いただき、非常に温かみのあるものとなりました。詳しくはイシバシ・ハンダイ映画祭公式ホームページ：

<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/ihfes/info/> をご覧ください。

(イシバシ・ハンダイ映画祭実行委員)



秋篠宮殿下が適塾をご訪問

10月29日(土)秋篠宮文仁親王殿下が、同日中之島センターにおいて開催された生き物文化誌学会へのご臨席に先立ち適塾を訪問されました。適塾では、江口太郎適塾記念センター長、村田路人文学研究科教授の案内でご見学になり、緒方洪庵ゆかりの古文書等の説明では時折ご質問をされるなど、熱心にご覧になりました。また、ご来館にあたっては、フィリップ・ドゥ・ヘーア駐日オランダ王国特命全権大使、マルガリータ・ボット在大阪・神戸オランダ総領事も同行されました。

(適塾記念センター)



熱心に説明を聞かれる秋篠宮文仁親王殿下
(説明者：村田文学研究科教授)

第2回 適塾見学会開催

10月30日(日)第2回適塾見学会を開催しました。この見学会は適塾記念会会員を対象に、適塾及び緒方洪庵に縁のある史跡等を訪ね、本学教員により専門的な解説を行う事業で、今回は約20名の参加者が、緒方洪庵、八重夫人の墓所である龍海寺や大坂の蘭学者の墓地等を訪れました。

(適塾記念センター)

緒方洪庵、八重夫人の墓所（龍海寺）で説明する
橋本孝成適塾記念センター特任研究員（左）



適塾講座開催

9月6日、10月4日、11月1日（いずれも火曜日）の3回にわたり、中之島センターを会場に適塾講座を開催しました。これまでは適塾記念会の会員を対象とした講座でしたが、今年度から一般受講者も募り、澤井実経済学研究科教授による「大阪の産業発展と大阪高等工業学校・大阪帝国大学工学部」と題した講義が行われ、各回約20名が受講されました。

(適塾記念センター)



講義を行う澤井教授

阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット 「公開講座フェスタ2011」開催

11月18日(金)さいかくホールにおいて、今年で14回目を迎える「公開講座フェスタ2011」が開催され、大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県の29の大学・研究機関が参加して全31講座が開講されました。大阪大学ならびに適塾記念会として本年は、村田路人文学研究科教授による「江戸時代の開発と治水」と題した講義が行われ、約60名が受講しました。

(適塾記念センター)



講義を行う村田教授

適塾記念センター開所式挙行

11月30日(水)、中之島センター9階交流サロンにおいて、適塾記念センター開所式が挙行され、マルガリータ・ボット在大阪・神戸オランダ総領事にも臨席いただき、総長、役員、部局長等が出席されました。式は、木下タロウ副センター長の司会で進行し、センター紹介映像を放映の後、平野俊夫総長から、開所にあたって、大阪大学の源流である適塾の保存と顕彰事業等について、当センターが責任を持ってしっかりと行っていく旨の力強い挨拶があり、江口太郎適塾記念センター長による概要説明、来賓を代表して、多田羅浩三大阪大学名誉教授・適塾記念会幹事から祝辞をいただきました。

(適塾記念センター)



平野総長からの挨拶



多田羅名誉教授からの祝辞

適塾記念講演会開催

11月30日(水)中之島センター佐治敬三メモリアルホールにおいて適塾記念講演会を開催しました。本講演会は、大阪発のオリジナルな学術、文化の成果をお話いただく講演会であり、今回は適塾記念センター開所記念講演会と位置づけ、大久保規子法学研究科教授による「環境政策最前線ーリオ会議20周年に向けてー」及び吉川秀樹医学系研究科教授による「整形外科の歴史と最先端治療」と題した講演が行われ、約80名の参加者がありました。

(適塾記念センター)



大久保教授



吉川教授

米国・ライス大学学長の表敬訪問について

10月18日(火)、ライス大学 David W. Leebron 学長一行が、高橋明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは斗内正吉レーザーエネルギー学研究センター教授、小川哲生理学研究科教授他、国際交流オフィス国際交流課職員が同席し、両大学間の学術交流協定の調印式が行われた後、今後の両大学間の交流およびアメリカ合衆国 NSF のファンディングに基づき、ライス大学がアメリカ側の窓口となり、全米の学部学生を日本に派遣する「ナノジャパンプログラム」(<http://nanojapan.rice.edu/>) について意見交換が行われました。



右：David W. Leebron ライス大学学長
左：高橋明理事・副学長

総長等への表敬訪問

米国・エネルギー省御一行の表敬訪問について

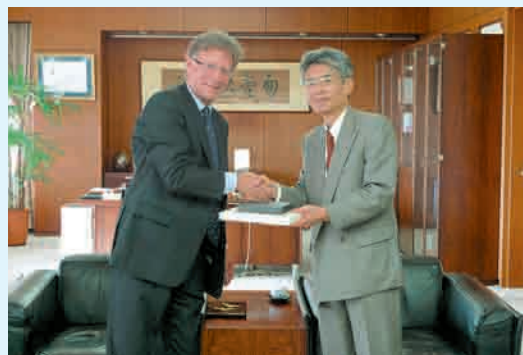
10月3日(月)、Dr. Steven E. Koonin 次官等米国エネルギー省御一行が、馬場章夫理事・副学長、相本三郎理事・副学長、東島 清理事・副学長、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、レーザーエネルギー学研究センター疇地 宏センター長、同西村博明副センター長、核物理研究センター岸本忠史センター長、同谷畑勇夫特任教授、向井弘志国際交流課長が同席し、プラズマや原子核といったエネルギー資源の重要性について意見交換が行われました。



理事表敬の様子（役員会議室にて）

APRU事務局長の表敬訪問について

10月31日(月)、このたびAPRU事務局長に就任されたDr. Christopher Tremewan氏が、平野俊夫総長、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、向井弘志国際交流課長、住吉賢司国際交流課長補佐が同席し、APRUの活動状況の報告ならびに今後の展開について意見交換が行われました。



記念品の交換を行うDr. Tremewan氏と平野総長

ベトナム・カントー大学御一行の表敬訪問について

11月7日(月)、Dr. Nguyen Anh TUAN 学長をはじめベトナム社会主義共和国カントー大学御一行が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、生物工学国際交流センター仁平卓也センター長、グローバルコラボレーションセンター住村欣範准教授、向井弘志国際交流課長が同席し、高橋理事・副学長による大学紹介、また、両大学間の今後期待される学術・研究交流について意見交換が行われました。



記念品の交換を行うDr. TUAN学長と高橋理事・副学長

在日本南アフリカ共和国大使館・科学技術部公使の表敬訪問について

11月10日(木)、在日本南アフリカ共和国大使館 Mr. Buti Cecil Masoka 科学技術部公使が、高橋 明理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、工学研究科村中俊哉教授、同牟田浩明助教、向井弘志国際交流課長が同席し、Masoka 公使による南アフリカ共和国の国立大学の紹介、また、両国における国際科学技術協力推進事業についての報告と意見交換が行われました。



【中央2名】左：Mr. Masoka 公使
右：高橋理事・副学長

平成23年秋の褒章・叙勲受章者

○褒章

大学院情報科学研究科教授（元大阪大学理事・副学長）
大学院工学研究科教授

にし 西 ふく 福	お 尾 ずみ 住	しょうじ 章治郎 しゅん 俊	ろう 一	紫綬褒章 紫綬褒章
--------------------	-------------------	-------------------------	---------	--------------

○叙勲

大阪大学名誉教授（元理学部教授）
大阪大学名誉教授（元言語文化部長）
大阪外国語大学名誉教授（元大阪外国語大学附属図書館長）
大阪外国語大学名誉教授
元大阪大学微生物病研究所事務部長
元大阪大学経理部車庫長

た 田 さい 齊	なべ 邊 どう 藤	ひろ 廣 とし 俊	き 城 お 雄	瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝中綬章 瑞宝双光章 瑞宝単光章
は 法 かつ 勝	きょう 橋 ふじ 藤	かず 和	ひこ 彦	
つじ 辻	もと 本	まさ 雅	たけし 猛	
たけ 竹			ひとし 仁	
			やす 靖	

※なお、上記叙勲は本学より申請した者に限りますので、ご了承ください。

（総務部企画部人事課）

西尾章治郎教授が紫綬褒章を受章



平成23年秋の褒章授与において、大学院情報科学研究科の西尾章治郎教授が、11月3日発令で「情報科学に関する研究に努めて優れた業績を挙げ学術の進歩に寄与した」功績により紫綬褒章を受章しました。11月15日(火)に行われた褒章伝達式において、西尾教授は、文部科学省関係の紫綬褒章、藍綬褒章、黄綬褒章、緑綬褒章の受章者を代表して挨拶を行いました。

福住俊一教授が紫綬褒章を受章



平成23年秋の褒章授与において、大学院工学研究科の福住俊一教授が、11月3日発令で「電子移動化学に関する研究に努めて優れた業績を挙げ学術の進歩に寄与した」功績により紫綬褒章を受章しました。11月15日(火)に伝達式が行われました。

山下俊英教授「第29回大阪科学賞」受賞

医学系研究科の山下俊英教授が、第29回大阪科学賞を受賞しました。11月2日(水)に表彰式と記念講演が行われました。受賞理由は「損傷中枢神経回路の再生を制御する分子機構の解明と分子標的治療法の開発」です。山下教授は、脳や脊髄、視神経などの中枢神経が損傷すると回復が困難になる原因について研究し、中枢神経回路の再生を抑制する分子機構を世界に先駆けて明らかにしました。さらに、中枢神経疾患による神経症状を改善する薬剤の開発に取り組んでおり、有望な再生治療として注目を集めています。

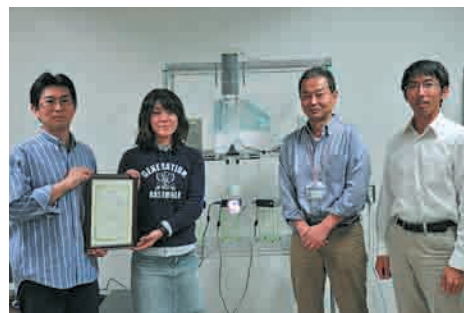
（医学系研究科・医学部）



井村誠孝准教授、八木明日華さん、黒田嘉宏助教、大城理教授「エンタテインメントコンピューティング2011論文賞」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域井村誠孝准教授、八木明日華さん（博士前期課程1年）、黒田嘉宏助教、大城理教授が、10月7日(金)、9日(日)に日本科学未来館（東京・お台場）で開催されたエンタテインメントコンピューティング2011において論文賞を受賞しました。受賞の対象となった『運動視差を利用するインタラクティブ全方位フォグディスプレイ』は霧（フォグ）による光の散乱の指向性を利用することにより、ユーザの視点に応じた映像が提示可能なディスプレイであり、ユーザが霧に手を挿入することでバーチャルな物体に直接触れるようなインタラクションを実現しています。

（基礎工学部・基礎工学研究科）



左から井村准教授、八木さん、大城教授、黒田助教

吉元俊輔君、黒田嘉宏助教、井村誠孝准教授、大城理教授「生体医工学シンポジウム ベストリサーチアワード」受賞

基礎工学研究科機能創成専攻生体工学領域博士後期課程1年（現・後期課程2年）の吉元俊輔君、黒田嘉宏助教、井村誠孝准教授、大城理教授が、9月16日(金)に生体医工学シンポジウムベストリサーチアワードを受賞しました。受賞の対象となった「組織牽引支援のための歪み計測に基づく電気触覚フィードバック」は、術具の歪み計測に基づき、人工的な触覚を術者の指に重畳することが可能なシステムであり、組織の牽引状態を教示可能となりました。今後は脳神経外科手術への応用が期待されます。

（基礎工学部・基礎工学研究科）



左から黒田助教、大城教授、吉元君、井村准教授

齊藤輝彦君第「58回有機金属化学討論会・ポスター賞」受賞

基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの齊藤輝彦君（博士後期課程1年）が、9月7日(水)～9日(金)、名古屋大学で行われた第58回有機金属化学討論会でポスター賞を受賞しました。有機金属化学討論会で発表されたポスター（165件）の中から特に優れた研究結果の発表（18件）に授与されたものです。

この研究によって前周期遷移金属でも酸化還元活性な配位子を用いることで精密な電子移動反応が可能になることが明らかになり、新たな触媒反応への発展が期待できることが学術的に高く評価されました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



齊藤輝彦君「第61回錯体化学討論会・ポスター賞」受賞

岡山理科大学で行われた第61回錯体化学討論会で、基礎工学研究科・物質創成専攻・機能物質化学領域・有機金属グループの齊藤輝彦君（博士後期課程1年）が、「 α -ジイミン配位子を有するタンタル錯体の酸化還元挙動の解明と配位子からの1電子移動反応を伴った炭素ラジカルの発生」のタイトルでポスター発表を行い、その発表が高く評価されポスター賞を受賞しました。この研究は前周期遷移金属でも酸化還元活性な配位子を用いることで精密な電子移動反応が可能なることを明らかにし、新たな触媒反応への発展が期待できることから学術的に高く評価されました。

（基礎工学研究科・基礎工学部）



川野聡恭教授「平成23年度科研費審査委員表彰」

基礎工学研究科の川野聡恭教授が、独立行政法人日本学術振興会より、平成23年度科研費審査委員表彰されました。

科学研究費助成事業において、適正・公平に運営していくにあたって審査の質を高めていくことは大変重要となっており、そのために、日本学術振興会が設置している学術システム研究センターで、審査終了後、審査の検証が行われています。

その検証結果に基づき、模範となる審査意見を付した審査委員が、表彰されることとなっており、今年度は、約5,000名の第1段審査（書面審査）委員の中から、49名が選考され、本学からは川野教授が選ばれました。

10月20日（木）に、総長より、日本学術振興会からの表彰状及び記念品が手渡されました。（研究推進部研究推進課）



左から相本三郎理事・副学長、川野教授、平野俊夫総長

上原真依助教「第9回『美術史』論文賞」受賞

文学研究科文化表現論専攻芸術史講座の上原真依助教が、『美術史』第168冊掲載の論文「カルロ・クリヴェッリ作《カステル・トロジノ祭壇画》の再構成」により第9回『美術史』論文賞を受賞しました。世界各地で分割所蔵されている4点の板絵の本来の姿を、新たに確認した19世紀の史料から再構成した同論文は、美術史研究における1次史料の重要性を再認識させ、19世紀イタリアにおける美術市場研究に貢献したと高く評価されました。

（文学研究科・文学部）



第64回美術史学会（平成23年5月20日同志社大学）での表彰式

審良静男拠点長「吹田市長賞」受賞

免疫学フロンティア研究センター（IFReC）の審良静男拠点長が、吹田市長賞を受賞しました。

吹田市長賞は、吹田市に縁のある卓越した研究者・スポーツ選手などに贈られてきました。過去には、オリンピックマラソンのメダリスト高橋尚子氏、スケートのメダリスト高橋大輔氏などが受賞しています。

今回の審良拠点長の受賞は、今年度のカナダガードナー国際賞の受賞を受けたもので、哺乳動物における自然免疫の働きを解明したことが評価されました。

（免疫学フロンティア研究センター）



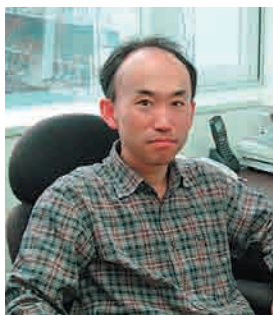
審良拠点長（左）と井上吹田市長（右）

荒瀬尚教授「免疫学会賞」受賞・馬場義裕准教授「第6回日本免疫学会研究奨励賞」受賞

免疫学フロンティア研究センター（IFReC）の荒瀬尚教授（免疫化学研究室）が、第14回日本免疫学会賞を受賞しました。

免疫学会賞は、「免疫学の進歩に寄与する独創的で顕著な研究成果を発表し、将来の発展を期待し得る優れた研究者」に与えられます。荒瀬教授は、NK、NKT細胞の機能、認識機構・活性化機構についての研究などが高く評価され、今回の受賞となりました。なお、第6回日本免疫学会研究奨励賞にIFReCの馬場義裕准教授（分化制御研究室）が選ばれました。

（免疫学フロンティア研究センター）



荒瀬教授



馬場准教授

青島貞人教授「高分子学会賞」受賞

理学研究科高分子科学専攻の青島貞人教授が高分子学会賞を受賞し、授賞式が第60回高分子学会年次大会において行われました。受賞研究は「新規リビングカチオン重合系の開拓および刺激応答性ポリマーの精密合成」です。青島教授は、新しいリビングカチオン重合法を開拓するとともに体系化を進め、さらにそれらを用いた刺激応答性ポリマーの精密合成という新しい研究分野を確立させました。これらの先駆的な成果が、国内外に大きなインパクトを与えたものとして高く評価されました。

(理学研究科・理学部)



青島貞人教授（右）

河田聡教授「第8回江崎玲於奈賞」受賞

フォトンクス先端融合研究センター長（兼）工学研究科の河田聡教授が「第8回江崎玲於奈賞」を受賞しました。受賞の対象となった研究主題は「近接場ナノ光学とプラズモニクス研究の開拓」で、河田教授は分子レベルで観察できる独自の光学顕微鏡を開発しました。これは自然の状態で分子を色として識別出来る画期的な発明です。

授賞式は10月13日(木)につくば国際会議場で行われ、茨城県科学技術振興財団の江崎玲於奈審査委員長から賞状が贈られました。

(工学研究科・工学部)



左から 江崎玲於奈審査委員長、河田聡教授
関正夫（株）関影商事代表取締役会長

嶋寺 光さん「第52回大気環境学会論文賞」受賞

今年3月に工学研究科 環境・エネルギー工学専攻博士後期課程を修了した嶋寺 光さん（現在、(財)電力中央研究所勤務）が、「第52回大気環境学会論文賞（学生・若手部門）」を受賞しました。

受賞対象となった研究課題は「森林地域における霧による硫黄および窒素沈着量の数値予測」です。9月に長崎大学 文教キャンパスで受賞式が開催され、大気環境学会長 坂本和彦先生（埼玉県環境科学国際センター総長）から賞状を授与されました。

(工学研究科・工学部)



木谷茂助教「平成23年度日本放線菌学会・浜田賞」受賞

生物工学国際交流センターの木谷茂助教が「平成23年度日本放線菌学会・浜田賞」を受賞しました。受賞の対象となった研究主題は、「放線菌における低分子シグナル伝達系を介した抗生物質生産制御メカニズムの解明」で、木谷助教は産業微生物である放線菌の抗生物質を生産する機構を解明したことが評価されました。

授賞式は9月8日(木)に札幌コンベンションセンターで行われ、日本放線菌学会の高橋洋子会長から賞状と受賞メダルが贈られました。

(生物工学国際交流センター)



受賞者記念撮影（木谷助教（左から3番目））

鎌田敏郎教授ら日本材料学会第11回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム「最優秀論文賞」受賞

工学研究科鎌田敏郎教授および大学院博士後期課程学生の新興洙君が「電磁パルス法によるフープ筋曲げ加工部の鉄筋破断の検出方法に関する基礎研究」と題する論文で、日本材料学会第11回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム最優秀論文賞を受賞しました。

この賞は、上記シンポジウム論文集に掲載された82編の査読付き論文の中で、内容が最も優れていると評価された最上位の1編に与えられる栄誉あるものです。

(工学研究科・工学部)



左から李君、鎌田教授、内田氏（佐賀大学）

池田雅夫名誉教授と藤崎泰正教授「2011年度計測自動制御学会著述賞」受賞

池田雅夫名誉教授（工学研究科機械工学専攻）と藤崎泰正教授（情報科学研究科情報数理学専攻）が、著書「多変数システム制御」（コロナ社、平成22年5月発行）により、9月15日(木)に「2011年度計測自動制御学会著述賞」を受賞しました。この本は、制御対象の状態方程式表現に基づく制御系設計法の概要をまとめたもので、たとえ数式を読み飛ばしたとしても小説のように通読できる理論の本であり、何を目的に何をするかという制御の考え方の本質が理解できる点などが、高い評価を受けました。

(工学研究科・工学部、情報科学研究科)



池田雅夫名誉教授（左）、藤崎泰正教授（右）

医学部附属病院「第8回日本e-Learning大賞 厚生労働大臣賞」受賞

医学部附属病院は、第8回日本e-Learning大賞（Japan e-Learning Awards 2011）において、厚生労働大臣賞を受賞しました。

今回の賞は、中央クオリティマネジメント部を中心に、文部科学省特別経費により、開発・導入を進めてきた医療安全教育を支援するためのラーニングマネジメントシステムやコンテンツに対して授与されたものです。

本年は75件の応募があり、本院の作品は、大学病院における診療と学習を両立させる優れたe-Learningの開発・実践例として高く評価されました。

(医学部附属病院)



大阪大学第一号磁界型電子顕微鏡が「重要科学技術史資料」に登録

国立科学博物館は、貴重な科学技術史資料の保存と活用を図り、次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録制度を平成20年度より実施しており、今回新たに20件の資料を登録しました。その中に、大阪大学総合学術博物館所有の、1939年に本学工学部の菅田榮治助教授（当時）によって製作された「大阪大学第一号磁界型電子顕微鏡（関連資料を含む）」も選ばれています。

登録証の授与式が9月27日(火)に東京上野の国立科学博物館においておこなわれ、本学からは江口理事・副学長（前館長）、高橋准教授と西准教授（超高压電子顕微鏡センター）が出席しました。

(総合学術博物館)



左から、菅田榮治氏のお孫さん、西准教授（超高压電子顕微鏡センター）、江口副学長（前館長）、菅田榮治氏のお孫さん、高橋准教授（博物館）

新教授紹介

大久保 忠恭 (おおくぼ ただやす)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学理学部化学科卒業
- 60. 3 大阪大学大学院理学研究科前期課程修了
- 63. 9 大阪大学大学院理学研究科後期課程修了
- 63. 9 株式会社蛋白工学研究所研究員
- 平 7. 4 北陸先端科学技術大学院大学助教授新素材センター
- 10.12 大阪大学助教授大学院薬学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院薬学研究科
- 23.10 大阪大学教授大学院薬学研究科

所 属：大学院薬学研究科分子薬科学専攻高分子化学分野

専門分野：構造生物学、生物物理化学

谷 口 正 輝 (たにぐち まさてる)

産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター



【略歴】

- 平 8. 3 京都大学石油化学科卒業
- 10. 3 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士前期課程修了
- 13. 3 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了
- 13. 4 日本学術振興会特別研究員
- 14.11 大阪大学助手産業科学研究所
- 19. 4 大阪大学助教産業科学研究所
- 20. 5 大阪大学准教授産業科学研究所
- 23.10 大阪大学教授産業科学研究所

所 属：大阪大学産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンターバイオナノテクノロジー研究分野

専門分野：単分子科学、ナノテクノロジー

後 藤 竜 司 (ごとう りゅうし)

大学院理学研究科



【略歴】

- 昭63. 3 東京大学理学部数学科卒業
- 平 2. 3 東京大学大学院理学系研究科数学専攻修士課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員 (H5.3まで)
- 4.11 東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻博士課程修了
- 4.11 博士(数理科学) (東京大学)
- 5. 4 大阪大学助手理学部
- 8. 4 大阪大学講師大学院理学研究科
- 12.10 大阪大学助教授大学院理学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院理学研究科
- 23.11 大阪大学教授大学院理学研究科

所 属：大学院理学研究科数学専攻大域数理学講座

専門分野：微分幾何学、複素幾何学

新教授紹介

近 藤 明 (こんどう あきら)

大学院工学研究科



【略歴】

- 昭57. 3 大阪大学工学部環境工学科卒業
- 59. 3 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了
- 59. 4 (株)松下電器産業生産技術本部生産技術研究所に勤務
- 平元. 2 大阪大学助手工学部
- 10. 4 大阪大学助手大学院工学研究科
- 11. 5 博士(工学)の学位授与(大阪大学)
- 12.12 大阪大学講師大学院工学研究科
- 13.10 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 23.11 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科環境・エネルギー工
学専攻共生環境評価領域

専門分野：環境工学、大気環境

佐藤邦彦名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授佐藤邦彦先生は、病氣療養中のところ、平成23年10月20日に逝去されました。享年86歳でした。

先生は、昭和22年9月東京帝国大学第一工学部船舶工学科を卒業し、昭和23年3月大阪大学工学部文部教官に任ぜられ、昭和26年12月同助教授を経て、昭和39年8月同教授に就任、溶接工学第3講座を担当し、昭和46年4月同大学工学部附属溶接工学研究施設教授、昭和47年5月同大学溶接工学研究所教授、昭和48年4月より同大学工学部教授を歴任し、昭和63年3月停年退官されました。その後、昭和63年4月福井工業大学教授、平成2年4月学校法人鉄鋼学園産業技術短期大学学長、同法人理事並びに

評議員に就任し、平成10年3月まで大学運営にご尽力されました。

先生は、溶接を中心とした鋼構造分野の産業界における開発研究において指導的役割を果たし、我が国の造船に代表される重工業分野において国際競争力のある高品質な溶接鋼構造物の生産の実現などに多大な貢献を果たされました。この業績により、2回の溶接学会論文賞、造船協会賞、日本非破壊検査協会論文賞、日本鋼構造協会業績表彰、さらに溶接・接合分野における学術の基盤強化や発展に大きく貢献したことで溶接学会賞を受賞するなど、多くの学協会で高く評価されました。また、平成16年には瑞宝中綬章を授与されました。

教育面では永年にわたって広い視野と高邁な識見で、一貫して我が国の溶接工学の教育研究に力を注がれ、多くの優れた人材を世に送り出しました。

学内においては、昭和59年7月から2年間、大阪大学評議員を務め、また、工学研究科大学院問題委員会委員長、溶接工学研究所運営委員会等を歴任し、大阪大学の発展、運営に尽力されました。

先生の長年のご功績を偲び、また、多くの研究者を温かい目で育成いただいたことを感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学研究科・工学部)

記念講義(最終講義)

平成24年3月31日限りで定年等により退職される教授の記念講義（最終講義）を、日程等が決まったものについてお知らせします。

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
人間科学研究科 （人間行動学講座 対人社会心理学分野）	大 坊 郁 夫	平成24年2月10日（金） 15:00～16:30 大阪大学コンベンションセンター 会議室1	Well-being の心理学 ーコミュニケーション研究を踏まえてー
法学研究科 （比較法政講座）	山 下 眞 弘	平成24年1月17日（火） 14:40～ 大学教育実践センター 大講義室	アウトな事業譲渡と会社分割 ー商法・会社法による解決の限界ー
理学研究科 （数学専攻 大域数理学講座）	藤 木 明	平成24年3月23日（金） 15:00～16:30 理学部大講義室（D501）	研究生生活を振り返って
理学研究科 （物理学専攻 物性物理学講座）	大 貫 惇 睦	平成24年3月2日（金） 10:00～11:30 大阪大学会館 講堂	単結晶育成と重い電子系の物理
理学研究科 （物理学専攻 量子物理学講座）	赤 井 久 純	平成24年3月2日（金） 13:00～14:30 大阪大学会館 講堂	計算機物理
理学研究科 （生物科学専攻 相関生物学講座）	金 澤 浩	平成24年3月17日（土） 14:00～15:30 大阪大学会館 講堂	イオンを運ぶ細胞の膜タンパク質を 研究して
理学研究科 （宇宙地球科学専攻 宇宙惑星進化化学講座）	松 田 准 一	平成24年3月16日（金） 16:00～17:30 理学部大講義室（D501）	私が選んだ私の三大論文 ー研究生生活を回想してー
理学研究科 （現理事・副学長）	東 島 清	平成24年3月2日（金） 14:50～16:20 大阪大学会館 講堂	物理学に志して
医学系研究科 （医学専攻 病理学講座病態病理学教室）	青 笹 克 之	平成24年 2月29日（水） 15:00～17:00 医学部講義棟A講堂	病理学 37 年
医学系研究科 （医学専攻 社会環境医学講座法医学教室）	的 場 梁 次	平成24年 2月21日（火） 16:00～17:30 医学部講義棟A講堂	突然死の研究 ～青壮年から乳幼児へ・病死から 覚醒剤へ～

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
医学系研究科 (医学専攻感染免疫医学講座 免疫動態学教室)	宮 坂 昌 之	平成24年 3月 5日(月) 15:00～17:00 医学部講義棟A講堂	リンパ球動態を規定する分子機構： ドグマとエニグマ
工学研究科 (マテリアル生産科学専攻 生産プロセス講座、複合化 プロセス工学領域)	西 本 和 俊	平成24年2月3日(金) 15:00～17:00 岡田メモリアルホール (工学部R棟)	溶接研究四十年
工学研究科 (マテリアル生産科学専攻 構造機能制御学講座材料精製 工学領域)	松 尾 伸 也	平成24年1月31日(火) 13:00～14:30 岡田メモリアルホール (工学部R棟)	白い雲は流れて
工学研究科 (電気電子情報工学専攻 集積エレクトロニクス講座 原子分子操作組立領域)	森 田 清 三	平成24年2月9日(木) 15:00～16:30 吹田キャンパス電気系E1-115 (メモリアルホール)	原子を観て、識別して、動かして 組み立てる ーライフワークを探し求めて30年ー
工学研究科 (附属原子分子イオン制御理工 学センタープラズマ粒子制御 研究部門)	岡 田 成 文	平成24年2月3日(金) 13:00～14:30 材料開発物性記念館 2F研修室(R4-213)	磁場反転配位プラズマと30年
基礎工学研究科 (物質創成専攻 化学工学領域 環境・ エネルギーシステム講座)	井 上 義 朗	平成24年3月9日(金) 15:00～17:00 基礎工学国際棟シグマホール	ミキシングの不思議と流体の たくらみ
基礎工学研究科 (システム創成専攻 数理科学領域統計数理講座)	白 旗 慎 吾	平成24年3月16日(金) 15:00～ 基礎工学国際棟シグマホール	ノンパラメトリックス 40 年
情報科学研究科 (ディペンダビリティ工学講座)	菊 野 亨	平成24年3月9日(金) 15:30～17:00 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール	「先読み」を追い求めて30年
生命機能研究科 (個体機能学講座 ヒト細胞生物学グループ)	田 中 亀代次	平成24年3月16日(金) 15:00～ ナノ棟3階講義室	細胞に学ぶ：色素性乾皮症研究に 魅せられて36年
連合小児発達学研究科 (こころの発達神経科学講座分子生 物遺伝学研究領域(医学系研究科 解剖学講座(神経機能形態学)))	遠 山 正 彌	平成24年3月15日(木) 15:00～16:30 医学部講義棟A講堂	「青斑核ノルアドレナリンニューロン から心の障害の克服まで」(仮)
ラジオアイソトープ 総合センター	斎 藤 直	平成24年3月9日(金) 15:00～16:30 ラジオアイソトープ総合センター 吹田本館大講義室	放射線と放射性核種の利用から 管理へ

部局（講座・部門等）	氏 名	日 時・場 所	講 義 題 目
総合学術博物館 (現理事・副学長)	江 口 太 郎	平成24年2月24日(金) 15:30～ 大阪大学会館講堂	分子からマチカネワニへ旅して
大学教育実践センター (キャリア教育支援部門)	木川田 一 榮	平成24年2月17日(金) 14:40～16:10 ステューデント・コモンズセミナー室1 (実践センター教育研究棟 I 2階)	世界に遊び 古典に学び 対話に観る
大学教育実践センター (FD推進部門)	山 成 数 明	平成24年2月17日(金) 16:20～17:50 ステューデント・コモンズセミナー室1 (実践センター教育研究棟 I 2階)	大阪大学で歩んだ 35 年
保健センター	太 田 妙 子	平成24年2月8日(水) 14:40～16:10 大阪大学会館 アセンブリーホール	「箕面学舎の春秋 ～卒後 40 年を振り返って～」
コミュニケーションデザイン・ センター	小 林 恭	平成24年2月15日(水) 10:30～12:30 ステューデント・コモンズセミナー室1	大学の教育研究を通じて成してきた 一つの事と現場力研究会について

「待兼山俳句会」のご案内

大阪大学 OB の俳句会「待兼山俳句会」は第 500 回記念句会を迎えたのを機に大阪大学の教職員の皆さまにもご参加頂ける会になりました。俳句にご関心をお持ちの方々は下記へメールをください。

【お問い合わせ】

svka10950@zeus.eonet.ne.jp

待兼山俳句会世話人代表 山戸暁子



訂正とお詫び

阪大 NOW No.127 (2011 年 10 月号) 掲載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.53 「新教授紹介」松島 法明 教授の所属部局

(誤) 大学院医学系研究科

(正) 社会経済研究所



INTERVIEW

ふく だ かず お
福田 和夫

身近に自然がある喜びを 子ども達に知ってほしい

基礎工学研究科化学工学領域質量分析室技術専門員

「研究が真理の探究を対象とするのに対し、技術は、人間の生活が便利になるように人間を相手にしているものと言えます。」と説明してくれた福田さんは、技術職員として、質量分析（試料をイオン化することにより、分析できるようにし、元素の組成を明らかにすることができる）一筋 42 年のベテランで、分析は年間 2500 件ほど手がける。学生実験も指導しながら、化学工学領域のサーバ管理も担当しています。

そんな福田さんが取り組む、野鳥の観察を通した「環境保護」の取組みについてお話を伺いました。

■ 環境保護への関心の始まり

自宅のある京都府南部で、平成 5 年頃に関西学研都市木津北地区開発に先立つ環境アセスメントが実施された。その調査で、自宅の里山に「オオタカの巣」が見つかった。オオタカといえば食物連鎖の頂点に位置する猛禽類であり、生態系の自然が健全でないと生息できないことで知られる。そのオオタカが、自宅近くで営巣していたことに驚いた。そのような豊かな自然が身近にあること、そしてまさにそれが壊されようとする現実を知り、野鳥をはじめとする、動植物をとりまく環境の保護に関心を持つようになり、「（公財）日本野鳥の会」（奈良支部）との出会いにつながった。

■ 活動について

「日本野鳥の会奈良支部」では月例の探鳥会の開催のほか、奈良県一斉のガンカモ調査も手がける。今年 6 月には、奈良県との協働事業として大峰山系（奈良県南部）にてコマドリ生息調査を実施した。その結果、20 年前と比較して 10 分の 1 にコマドリが激減していることに驚かされた。

県からの依頼で、野鳥の会が奈良市内の小学校で野鳥や自然保護に関する授業を開催することもある。午前中に授業、そして午後から野外に出て実際に野鳥を観察する。「小学生の記憶力はすばらしいですね。あっという間に野鳥の



大峰山にて

名前を覚えてしまいます。多くの野鳥を指しながら楽しげに名前を当てる姿を見て、身近に自然がある喜びを持ち続けてほしいと思い

ました。」

その他、矢田丘陵（大和郡山）では里山再生事業にも携わる。「矢田丘陵は、昔は里山としての風景を保っていたのですが、長年、竹林が放置され、竹藪状態になってしまっています。月に 2 回くらいずつ伐採の活動を続けて 6 年ぐらいになります。野鳥が集まるため池もでき、太陽の光を浴び自然発芽による多くの木々も芽吹き始めようやく生物の多様性ができあがりつつあります。」

■ こんなところにも！

実際に中山池（豊中キャンパス）畔で野鳥について教えていただいた。「野鳥を分かっている人と観察に行くと、『この環境ならどんな鳥がいるはずだ』という視点で鳥を探すので非常に見つけやすいし、理解しやすいんですよ。」と話し、池を指さしたり、鳴き声を聞き分けながらモズやセグロセキレイについて解説してくれた。なんと清流に住んでいると思っていたカワセミも見ることができた。



■ これから

野鳥の会では「調査」や「報告書作成」といった作業もこなし、自身の職業が「大学の技術職員」だったからこそこなせた面もあるだろうと振り返る。

これからの目標や、取り組んでみたいことについて聞いてみた。「今まで手を付けたものをやり遂げることを大事にしたいです。子ども達への自然観察や里山再生など、時間がかかるものがあるので、とにかく続けていくことを大事にしたいと思っています。」

オランダ・グローニンゲンからのレポート

グローニンゲン教育研究センター

中 野 生 穂

2010年11月よりグローニンゲン教育研究センターに勤務しています事務職員の中野と申します。ここ数ヶ月の出来事をダイジェストで振り返り、今回の私の海外拠点だよりとさせていただきますと思います。



■ グローニンゲン訪問団

今年（2011年）8月から9月にかけては、グローニンゲン大学夏期短期語学研修プログラム、および第2回日蘭学生会議参加の本学学生、同会議基調講演のための肥塚隆駐オランダ大使、また関西より訪欧高等教育調査団の方々の訪問もあり実に多くの方がグローニンゲンに来られました。

まず今年度が6回目となるグローニンゲン大学短期語学研修プログラムでは、8月22日より9月10日の約3週間8名の学生がグローニンゲンに滞在しました。英語学習の成果につきましては前号の本誌キャンパスニュース内にも報告させていただきましたが、授業以外のエクスカージョンプログラムも充実しているのが本プログラムの特徴の一つです。バスでオランダ干拓の歴史を巡る研修ツアー、アムステルダムでの美術館訪問、ユトレヒトでのディック・ブルーナ・ハウス訪問、今年度は近郊の日系企業訪問としてキッコーマン・ヨーロッパフーズも訪問しました。また参加学生より非常に評判の良かったイベントとして週末のオランダ人の家庭訪問があります。当日は最寄り駅より馬車に乗ってホストファミリー宅まで移動し、オランダの伝統的ボールゲーム体験、オランダの家庭料理を囲んでの夕食会等、一同非常に楽しい時間を過ごしました。

9月13日から9月19日まで第2回日蘭学生会議参加のため、15名の学生がグローニンゲンに滞在しました。今回は「働くこと」をテーマに2日間にわたり活発なディスカッションが行われ、滞在中には様々なイベントも実施さ



ユトレヒトへのエクスカージョン

れました。うち9月19日には三菱重工業株式会社が建設中のオランダ最大規模の火力発電所を訪問し、本学欧州同窓会の会員でもある同発電所建設責任者・池辺公智氏（本学工学部卒業・三菱重工株式会社）に施設案内



オランダ干拓の歴史を巡るバス研修旅行

等をしていただきました。

また9月9日には、公益法人関西生産性本部より高等教育調査の目的で主に在関西の大学、および教育関連企業を中心に15名の調査団員の方々がグローニンゲン大学を訪問されました。当日は、グローニンゲン大学S. Poppema学長はじめ4名の同大学教職員の方々による大学紹介と高等教育に関するプレゼンテーション、および同大学本部棟にて夕食会を開催していただきました。

この様に多くの方々にグローニンゲンにお越しいただくのは大変嬉しいことですし、センター業務を通じていろいろな方にお会いできるのはとても楽しいことです。



訪欧高等教育調査団の
グローニンゲン大学訪問

三菱重工業（株）建設中の
火力発電所訪問（設置前の
巨大タービンの前で）



■ 留学フェア参加

10月5日アムステルダム上級職業学校で開催されたアムステルダム大学・同上級職業学校合同の留学フェアに在オランダ日本大使館の日本ブースに合同で参加させていただきました。当日は本国の他、各国の大使館、インターンシップ関連、語学学校等合計57のブースが出演され会場全

体が熱気につつまれた非常に活気あるイベントでした。日本ブースも人気で100名ほどのオランダ人学生が立ち寄り準備した本学関連の冊子等もほぼすべて持ち帰られました。今年の日本は大震災、原子力発電所事故等いろいろありましたが、それでも多くのオランダ人学生が日本の国力を評価し、興味を持ってくれていることを非常に嬉しく思いました。当日は日本のこと、本学のこと、本センターのことを宣伝する大変良い機会となりました。

また11月25日にはロンドン・The Royal Societyで開催されました慶応義塾大学主催、ブリティッシュ・カウンシル協賛の日本留学フェア“Experience Japan Exhibition”に本学のブースを出展しました。当日は日本留学に関心のあるイギリス人学生、日本人学生、保護者および教育関係者が訪れ、主催者側の公表数によると475名の来場者があり、入場待ちの行列ができるほど大盛況のイベントでした。本学ブースも訪問者が絶えないほど人気があり、主にグローバル30プログラムを中心に本学留学に関する説明を行いました。留学フェア前日の24日には、ブリティッシュ・カウンシルでネットワークレセプションが開催されたので、両日を通じ多くの日本およびイギリスの教育関係者の方々と情報交換する機会もあり、非常に充実したロンドン滞在となりました。

この12月にも在欧州の各インターナショナルスクールでの本学入試説明会、ボン大学での留学フェア参加の予定がありますので、機会あるごとに本学の広報、宣伝活動にも勤めたいと思います。



アムステルダムでの
留学フェア参加



ロンドンでの
日本留学フェア

■ 大阪大学欧州同窓会

今年度の本センターの大きな取り組みの一つとして2011年6月18日に第1回大阪大学欧州同窓会および総長との交流会の開催がありました。組織の立ち上げに加え、ドイツ・ベルリンでの開催、また会場が3か所（ホテルマリタイム・日本国大使館・オペラ宮）あったこともあり準備の段階で大変なこともありましたが、多くの方々にご協力いただき盛大な会となったことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

ベルリンでの同窓会にイタリアより唯一ご参加いただきました山口透氏（本学経済学部卒業・三菱東京UFJ銀行

ミラノ支店）のご協力のもと、翌7月23日にミラノにてイタリア地域の同窓会を開催いただきました。私自身、昭和会会員でもあり、この同窓会に参加させていただきましたが、食事も美味しく話も弾み非常に楽しい会でした。併せましてイタリア地域よりまとめて15名の方の新規会員登録がありました。

また11月20日にはグローニンゲンにおいても在オランダの会員の方々を中心に地域の同窓会を開催致しました。当日は、グローニンゲン市内の日本食レストラン花里にて、大人10名、お子様2名が集まりました。グローニンゲン大学に留学中の本学学生も交え、非常にアットホームな雰囲気の良い会となりました。

11月25日には、ロンドンにて欧州同窓会イギリス地域代表の古川修氏（大阪外国語大学卒業・日本トランスユーロ）、鈴木憲教授（本学大学院医学系研究科修了・ロンドン大学）を交え、弘津センター長と共に、次回ロンドンでの地域同窓会の開催に向けて打合せを行いました。

大阪大学欧州同窓会は、まだ新しい組織ですが、この様に欧州に本学同窓会の輪が広がっていくのは嬉しいことです。これからも事務局として可能な限りサポートしていきたいと思います。



7月ミラノでの
地域同窓会



11月オランダでの
地域同窓会

■ 最後に

グローニンゲンの良いところは、治安が良いこと、街並みが非常に美しいこと、街中どこでも英語が通じるということ、人々が親切なこと等たくさんありますが、私もこちらにきて早1年が経ちましたが、住めば住むほどグローニンゲンが大好きになります。グローニンゲン大学国際部の担当者の方々をはじめ同大学教職員の皆様、本センターと同じビル内のオフィスに勤務されているオランダ人の方々、皆様とても親切で、協力的でいつも感謝しながら日々の業務に勤めています。

人口約19万人のうち約4分の1が学生と言われているアカデミックな雰囲気の大学街、グローニンゲンへの留学や研究滞在もグローニンゲン関係者の一人としてもお薦め致します。そのためにも本センターも可能な限り協力させていただきたいと思います。これまでの1年目の経験をもとに微力ながらこれからも本センター運営に益々邁進して参りたいと思います。

ジョージア大学

The University of Georgia, Athens (略称はUGA)



概要 ジョージア大学（以下UGA）は、1785年にアメリカ合衆国で最初の州立大学として創立され、現在は15学部からなる伝統ある総合大学です。米国南部最大の都市である州都のアトランタから、北東に車で約1時間のアセンズ（Athens：アテネ）という大学町にあります。



という大学町にあります。気候は関西と同じぐらい温暖で住みやすく、学生数約3万5千人（学部生約2万6千人、大学院生約9千人）で、過去40年間、とりわけ過去10年間の発展が目覚ましく、キャンパスの拡張・拡充、国際交流プログラムの拡充が図られてきました。全学の留学生の出身国は127カ国にのぼります。

教育環境 UGAで勉強できるのは、農業環境科学、芸術学、人文科学、社会科学、生物科学、物理科学、経営学、教育学、環境デザイン学、家族消費科学、森林天然資源学、ジャーナリズムとマスコミ、法学、薬学、公共衛生学、ソーシャルワーク、獣医学の分野で、現在79種類もの学位が取得可能です。2012年にはジョージア保健科学大学との協働で医学部の施設もアセンズにできるようです。

学部1年生が全寮制であるため、学生生活を支える施設が整備・拡充されています。美しい「学生村」だけでなく、24時間対応のラーニング・センターの施設は評判が高く、

充実した図書館と共に学生の勉学をサポートしています。

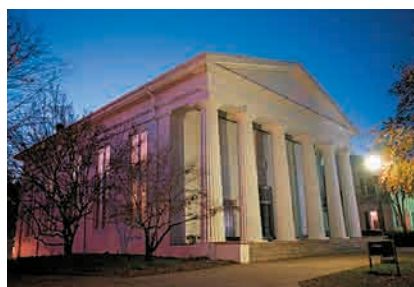
大学評価 UGAは、2012年の全米公立大学ランキングで23位タイです。全米大学において海外派遣学生数で9位でした。また「これから期待できる大学」の全米11位でした。中でも優秀な経営学、教育学、ジャーナリズム、法学、公共政策学の各大学院は全米4位～50位の間と評価されています。（以上U.S. News & World Report社）また、2001年に独立したユニークな景観建築学科の「Landscape Architecture Program」は全米10位と紹介されています。（The Best Colleges）

文化と人々 UGAは、音楽やスポーツが盛んで、キャンパスにできた本格的な劇場や、美術館も魅力的です。また南北戦争の歴史や、人種差別撤廃運動、『風と共に去りぬ』の舞台、またコカコーラやCNNの本社があるアトランタに近いことなど、地域的にも米国南部の魅力満載です。「南部訛り」と言われる英語方言には最初面食らうかもしれませんが、「南部のもてなしの心 Southern Hospitality」という言葉があるほど、人々は一般的におっとりしていて明るく親切です。

大学HP：<<http://www.uga.edu/>>

紹介者：真嶋潤子（世界言語研究センター教授、日本語教育学）

jmajima@world-lang.osaka-u.ac.jp



編集後記

今号より、「キャンパスニュース」、「表彰等」をコンパクトにまとめて皆様にお送りしております。これまで、ページ数の増加により手に取っていただきにくいボリュームとなっておりましたので、記事1件あたりのボリュームを圧縮することにより、ページ数の削減を図りつつ、できるだけ多くの記事を掲載させていただくこととしています。

引き続き、阪大NOWをよろしくお願いいたします。

（柿木）

ソフトボール部

目指せ！1部優勝！インカレ制覇！



みなさん、こんにちは！

大阪大学ソフトボール部です。私たちは現在、関西リーグの1部に所属し、1部優勝、インカレ優勝を目標に活動しています。多くの方がソフトボールをやったことや見たことがあると思います。そのため、野球やソフトボールの経験のない初心者の方でも気軽に始められるスポーツです。現部員の中にも初心者だった者もいます。もちろん野球経験者の方の期待を裏切ることはありません。ウインドミルと呼ばれる下手からの投法から野球の140km/hを超える体感速度の速球や、浮き上がるライズボールなどソフトボール特有の世界を味わうことができます。

我が部が出場する大会は、春と秋に行われる関西リーグのリーグ戦、社会人を含めた全国のトップを決める全日本総合、国公立大学が集まって行われるオープン戦、七大学が集まって行われる七大学戦、インカレ、西日本インカレなど試合をする機会も豊富にあり、楽しく活動出来ています。

今年は春のリーグ戦でブロック優勝を果たし、1部2部の入れ替え戦を制し1部昇格を決め、秋のリーグ戦では昇格直後にもかかわらず最後まで優勝争いに絡むも、惜しく

も準優勝となりました。また、その他の大会においても、格上の社会人チームに勝利するなど、上々の成績を収めることが出来ました。

それ以外にも合宿、飲み会などイベントもたくさんあり、厳しい練習だけではなく楽しくやる、ということを重視しています。

このように我々ソフトボール部は楽しさと勝利を追い求め、日々練習に励んでいます。是非一度、試合や練習を観に来てください。



主将 久我慎太郎(工3回生)

〈コメント〉

今春に1部昇格を成し遂げた我々ソフトボール部は、その勢いそのままに秋に1部準優勝を成し遂げた。その偉業を知る者は少ないが、これからの活躍にも乞うご期待☆



練習場所：豊中キャンパスグラウンド・テニスコート横
練習日時：月、水、木曜日：16：10～19：30（4限終了後）
土曜日：9：00～12：30
部員数：選手：4回生6名、3回生7名、2回生7名、1回生5名
マネージャー：3回生2名、1回生2名
連絡先：主務 里圭人:world-heritage-site17@docomo.ne.jp
HP：http://osaka-univ-softball.jimdo.com/

トピックス

第6回ホームカミングデイを開催しました

11月6日(日)、東日本大震災の影響により当初の5月開催予定から延期しておりました第6回目となる本年のホームカミングデイを、まちかね祭の開催に合わせ、豊中キャンパスにおいて開催いたしました。

時折雨が降るあいにくの天候にも関わらず、卒業生とご家族やご友人など約230名の方々がキャンパスを訪れました。

会場である大阪大学会館(旧イ号館)入り口では、ご来場いただく諸先輩や来賓の皆様を応援団員が笑顔で出迎え、歓迎ムードが漂う中、セレモニーが始まりました。

江口太郎理事・副学長の司会で、応援団による学生歌演奏、演舞により開幕しました。

平野俊夫総長の主催者挨拶・近況報告、熊谷信昭同窓会連合会会長(元総長)の挨拶に続き、本年は、多田羅浩三名誉教授により「わが母校の伝統と教え」と題して基調講演が行われ、懐徳堂、適塾を源流にもつ本学の伝統と、現代に続く教えについて、史料に基づき分かりやすく解説いただき、大阪大学が他の帝国大

学とは違い「創られた大学ではなく大阪の町が育てた大学ということが出来る」と述べられました。

その後、場所を図書館下食堂に移しての懇談会は、法学部卒業生の西川善文氏(株式会社三井住友銀行顧問)による乾杯のご発声で開会しました。

会場では、学生軽音楽サークル「SWING」の軽快な音楽をBGMに、参加された方々の思い出話にも大いに花が咲き、会場内では旧交が温められ、終始和やかな雰囲気の中での散会となりました。

ご来場いただいた方々の中には、引き続き、ご卒業された学部と同窓会のイベントやまちかね祭のイベントに参加される方、「総合学術博物館第14回企画展」の中の「わたし」と情報の中の「私」に参加される方もおられ、母校で一日を過ごされる姿が多くみられました。

ご多忙のところご来場いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。

(広報・社会学連携オフィス広報・社会学連携事務室)



挨拶をする平野総長



熊谷元総長による挨拶



多田羅名誉教授による講演



応援団による演舞



懇談会で卒業生に囲まれる平野総長